

別府現代芸術フェスティバル 「混浴温泉世界」実行委員会

平成28年度 事業報告書

2017年3月31日

■ 主催者あいさつ	p2
第1章 はじめに	
1-1. 事業概要	p3
1-2. 運営組織	p4
第2章 開催記録1 「ベップ・アート・マンス 2016」	
2-1. 企画概要	p5
2-2. 実施団体・プログラム	p5
2-3. 運営について	p30
2-4. 「ベップ・アート・マンス 2016」意見交換会の開催	p31
2-5. サポートへの評価	p32
2-6. 来場者について	p33
2-7. まとめ	p38
第3章 開催記録2 「目 In Beppu」	
3-1. 企画概要	p41
3-2. 作品について	p42
3-3. 関連イベント	p44
3-4. 運営について	p45
3-5. 来場者について	p46
第4章 その他の取り組み	
4-1. 情報発信事業	p51
4-2. 定住促進事業	p52
第5章 共通の取り組み	
5-1. 広報活動と開催効果	p53
5-2. 観光消費額	p55
第6章 収支状況	p56
第7章 事業評価	
7-1. 評価の検討	p57
7-2. 評価手法の再整理	p57
7-3. 2016年度事業の評価結果	p60
第8章 今後のビジョン	
「観光地型・文化芸術創造都市」としての別府実現に向けたビジョン [2016]	p63

別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会の核事業である「混浴温泉世界」が2015年に閉幕し、その後継事業として始まった「in BEPPU」。市民文化祭「ベップ・アート・マンス」の目玉事業として位置付ける本事業は、アーティストを1組選出し、別府市の様々な場所を舞台に毎年開催するアートプロジェクトです。毎回100組程度参加した「混浴温泉世界」をグループ展とするなら、「in BEPPU」は“個展”であり、一人のアーティストの無限の想像力によって、日常の風景が一変することを目指し企画したものです。

本年の第1回目の「in BEPPU」は、活躍著しいアーティスト集団【目】を招聘し、別府市役所を会場に「目 In Beppu」を開催しました。知覚を揺さぶるようなこのプロジェクトは、賛否両論引き起こし、図らずもアートとは何かについて考える契機になったのではないのでしょうか。

現在、大分県は別府市だけではなく国東半島や竹田市など、地域性を活かした文化振興事業が盛んに行われています。さらに、2018年に開催される「第33回国民文化祭・おおいた2018」では、全18市町村で新たなアートプロジェクトの実現を目指しており、「in BEPPU」はそのリーディング事業としての役割が期待されています。そのためには、より一層の質の向上、実施体制の強化が求められます。

そこで、「目 In Beppu」を言わば実証実験として実施することによって、現在の我々の実力を明らかにするとともに、「2020年東京オリンピック・パラリンピック文化プログラム」が全国で展開される2010年に向けたビジョンを策定する期間としても、本年の活動を位置付けました。このビジョンは「観光地型・文化芸術創造都市としての別府」実現を目指すもので、本来なら行政組織が掲げるべき内容を意識しています。そして、次年度以降、このビジョンを実現していくための評価シートを作成する予定で、これは組織の業務改善プロセスに重きを置き、それぞれのタスクの目的を明確化するものとなるでしょう。つまり、与えられるハードルとして評価を捉えるのではなく、組織の成長がそのまま地域の課題解決に直結するための評価シートとして組み立てたいと考えています。

今年度はこれらの事業とともに、別府市の魅力を発信する事業「旅手帖beppu」WEB版の制作と、全国のアーティストやクリエイターに向けた移住・定住意識調査を行いました。

末尾となりましたが、「目 In Beppu」および「ベップ・アート・マンス2016」の開催に向けご尽力、ご指導をいただいた皆様、とりわけ1ヶ月以上もの間、「目 In Beppu」の会場となりご不便をおかけした市役所職員の皆様、またご参加いただいた大勢の皆様に感謝を申し上げ、御礼とさせていただきます。

別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会
総合プロデューサー 山出淳也

第1章 はじめに

1-1. 事業概要

事業概要

2009年から計3回開催した、別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」や、2010年から毎年開催する市民文化祭「ベップ・アート・マンス」を中心に、様々な文化による発信・交流事業によって、今や別府市はアートの町として全国でも知られるようになった。

これまで取り上げられることの少なかった女性誌や国内外の文化系情報誌などへの掲載、既存客とは違うアートを入り口に地域を楽しむ若年層女性個人客や、文化に携わる市民の増加および交流が促進されつつある。さらに、別府と同様の取り組みが大分県内全域に広がり始めている。国東半島や大分市、竹田市などでは地域性を活かしアートを掛け合わせることで、さらなる魅力を創出する独自色の強い事業が生まれている。

今後、大分県では、「第33回国民文化祭・おおいた2018」や、「ラグビーワールドカップ2019」、「2020年東京オリンピック・パラリンピック文化プログラム」の開催を控えている。それを単なる文化・スポーツの祭典として位置付けるだけではなく、大分県全体で始まった文化による取り組みを継続的に育成・支援する事業によって、地域力の再発見や新たな魅力の創出を行い、それらが連携する取り組み、言わば「ベップ・アート・マンス」の県全体への拡大版となる広域連携事業を造成することで、大分県の魅力を国内外に強く発信していく。

その中心事業として「混浴温泉世界」に変わる新規の大型プロジェクト「in BEPPU」を創出し、大分県のリーディングプロジェクトとして位置付けている。また、地域の魅力を伝えるための「旅手帖beppu WEB」、外国人向けコンテンツの「豆知識beppu」の記事の拡充等を行うとともに、アーティスト・クリエイターの移住・定住等の意識調査を実施した。本事業の取り組みを通して、大分県が取り組む「創造県おおいた」の推進、そして地方創生の成功モデル実現につなげたい。

芸術祭 開催クレジット

名称	「ベップ・アート・マンス 2016」	「目 In Beppu」
日時	2016年10月29日(土)～11月30日(水) (33日間)	2016年11月5日(土)～12月2日(金) (28日間)
会場	別府市内各所	別府市役所内
主催	別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会	
助成	文化庁(平成28年度文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業)、公益財団法人 福武財団、公益財団法人 花王 芸術・科学財団、一般財団法人 大分放送文化振興財団	
協賛	全日本空輸 株式会社、株式会社 大分銀行、株式会社 資生堂 大分県立芸術文化短期大学、大分みらい信用金庫、株式会社 カワモト、株式会社 ダイソー、株式会社 トキハ、有限会社 ビーエムハラダ、別府商工会議所、悠彩の宿 望海 大分ガス 株式会社、鬼塚電気工事 株式会社、公益社団法人 ツーリズムおおいた、JR九州ビルマネジメント 株式会社、べっぷ 野上本館、山口産業 株式会社、一般社団法人 別府市観光協会、別府市中心市街地活性化協議会	
後援	別府市、大分県教育委員会、別府市教育委員会、別府市旅館ホテル組合連合会、公益社団法人 ツーリズムおおいた、別府商工会議所、一般社団法人 別府市観光協会、別府市中心市街地活性化協議会、大分県民芸術文化祭実行委員会、大分県芸術文化振興会議、別府駅前通商店街振興組合、別府料理協同組合、大分合同新聞社、朝日新聞大分総局、毎日新聞社、西日本新聞社、読売新聞西部本社、今日新聞社、共同通信社、日本経済新聞社 大分支局、OBS 大分放送、TOS テレビ大分、OAB 大分朝日放送、エフエム大分、CTBメディア、ゆふいんラヂオ局、月刊・シティ情報おおいた、ネキスト	

※「第33回国民文化祭・おおいた2018」「第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」キックオフイベント

※「別府ONSENアカデミア」関連イベント

※大分県平成28年度創造県おおいた推進事業

実行委員会

2016年3月1日時点

顧問	広瀬勝貞		大分県 知事
	長野恭紘		別府市 市長
	千壽健夫		別府商工会議所 会頭
	梅野朋子		一般社団法人 別府市観光協会 会長
	上月 敬一郎		別府市旅館ホテル組合連合会 会長
委員	中山欽吾	実行委員長	大分県立芸術文化短期大学 学長
	菅 健一	副実行委員長	NPO法人 別府八湯トラスト 代表理事
	佐藤文博		大分県企画振興部 芸術文化スポーツ局 芸術文化振興課 課長
	山本章子		大分県東部振興局 局長
	三浦宏樹		公益財団法人 大分県芸術文化スポーツ振興財団 参与
	伊藤慶典		別府市 ONSEN ツーリズム部 部長
	荒川孝二		公益社団法人 ツーリズムおおいた 事務局長
	渡邊秀一		別府商工会議所 専務理事
	工藤浩司		一般社団法人 別府市観光協会 総務課長
	尾野文俊		大分経済同友会 常任幹事
	川野雅己		別府市商店街連合会 会長
	大蔵開平		別府溝部学園短期大学 教授兼広報課長
	田中修二		大分大学 教授
	於保政昭		大分県立芸術文化短期大学 専任講師
	太田貴信		九州旅客鉄道 株式会社 別府駅長
	渦古 隆		株式会社 JTB九州 大分支店長
	小野 司		大分合同新聞社 別府支社 支社長
	鶴田 浩一郎		NPO法人 ハットウ・オンパク 代表理事
	甲斐賢一		NPO法人 鉄輪湯けむり倶楽部 代表理事
	山出淳也	総合プロデューサー	NPO法人 BEPPU PROJECT 代表理事
監事	堀 精治		別府市旅館ホテル組合連合会 事務局長
	篠藤明德		別府大学 教授
調整委員会	堀 政博		大分県企画振興部 芸術文化スポーツ局 芸術文化振興課
	松田康平		大分県東部振興局 地域振興部
	田北浩司		別府市 ONSEN ツーリズム部 文化国際課長
	野口一郎		別府商工会議所 観光・事業部長
	安波治子		NPO法人 鉄輪湯けむり倶楽部

事務局 NPO法人 BEPPU PROJECT

第2章 開催記録1 「ベップ・アート・マンス 2016」

2-1. 企画概要

「ベップ・アート・マンス」とは、別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会が主催となり、11月の1ヶ月間、別府市で開催される様々な文化事業を紹介し支援する、登録型のプラットフォーム事業である。2010年から毎年秋に開催し、今年度で7回目の開催であった※。小規模文化団体の育成・支援を目的に、広報協力、事務局業務代行、企画立案から実現に向けたサポートを行うことで、市民の主体的な参画を促進し、別府市における芸術文化の振興と活力あふれる地域の実現を目指す取り組みである。本年度は10月29日～11月30日の開催とした。

※2012年度、2015年度は別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」の開催に合わせて、それぞれ10月6日～12月2日、7月18日～9月27日の約2ヶ月間開催した。

事業の目的は、下記の4つである。

1. 別府市における文化芸術の振興
2. 別府市における文化芸術の鑑賞機会の充実
3. 様々な芸術表現の発表機会の提供
4. 別府市における集客交流人口の多様化

2-2. 実施団体・プログラム

87団体／個人が97プログラムを登録し、別府市内各所で開催された。

56の会場でプログラムが開催された(うち提供会場8ヶ所)。ただし、開催場所を「別府市内各所」と告知したうえで不特定・複数回開催されたプログラムについては「1ヶ所」とした。

企画者	「シアター・プノンペン」上映委員会	
プログラム名	「シアター・プノンペン」を通して学ぶカンボジアの映画史	
会期	10/29(土)～11/4(金)	
会場	別府ブルーバード劇場	
料金	1,000円	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	110名／50名 (220%)	
実施内容	映画「シアター・プノンペン」の上映とカンボジアに関連するパネル展示。初日はトークセッションも開催した。来場者は真剣に映画を観てくれて、カンボジアに興味を持ってくれた様子だった。	

企画者	Ai Harada & Kana Ueda	
プログラム名	だるま88祭り in Beppu	
会期	10/29(土)～11/6(日)	
会場	茶房たかさき	
料金	入場無料、だるまアート3,300円・カード占い1,100円	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	200名／100名 (200%)	
実施内容	Ai Haradaのだるまアート作品の展示とKana Uedaのカード占いを実施した。来場者の8割がブログの読者、残りが喫茶店利用客と県内来場者だった。	

企画者	平野資料館・別府温泉宣伝協会	
プログラム名	現代アート「祖天麗」作品展	
会期	10/29(土)～11/6(日)	
会場	平野資料館	
料金	300円	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	75名／50名 (150%)	
実施内容	オーストラリアで活躍している現代アート作家、祖天麗の作品と写真約50点の展示を行った。作品のほかに日中豪友好交流の説明パネルも展示し、来場者は祖天麗の活動や、平野資料館との交流の歴史に興味を示してくれた。	

企画者	吉森悦治	
プログラム名	吉森悦治個展	
会期	10/29(土)～11/6(日)	
会場	紙屋公民館	
料金	無料	
来場人数 ／目標人数(達成率)	100名／100名 (100%)	
実施内容	普段制作している作品を、会場を埋め尽くすように展示した。変わった形の作品が多く「変わっていますね」「面白い」という言葉をくれた。	

企画者	株式会社 都留紙器工業所	
プログラム名	貼り箱作り体験or工場見学	
会期	10/29(土)・11/12(土)	
会場	株式会社 都留紙器工業所	
料金	1,000円、見学のみは無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	3名／6名 (50%)	
実施内容	工場内の機器の説明の後、箱に紙を貼りリボンをかけた。参加者は楽しそうな様子だった。	

企画者	たけしよくにん	
プログラム名	「ただけであそぼ」竹の展示販売とワークショップ	
会期	10/29(土)～11/27(日)	
会場	platform07 別府竹細工職人工房	
料金	入場無料、ワークショップのみ有料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	54名／90名 (60%) ※物販を含めた総来場者数254名	
実施内容	竹細工の制作体験と展示販売を開催。竹細工について学びながら体験してもらい、また参加したいとの意見もいただいた。	

企画者	Erune*ian／エルネルイアン	
プログラム名	Erune*ian 個展	
会期	10/29(土)～11/29(火)※11/23を除いて水曜休み	
会場	セカンドハウス縁や	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	60名／200名 (30%)	
実施内容	尾道を拠点に活動するエルネルイアンの絵画展。絵をまじまじと見たり、添え書きの文章を読んで感想を言ってくれる来場者が多かった。	

企画者	ギャラリー花民	
プログラム名	国東に集う人びと	
会期	10/29(土)～11/30(水)※火曜休み	
会場	ギャラリー花民	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	153名／300名 (51%)	
実施内容	陶芸、木工、絵描き、七島蘭工芸等、仏と神が混在する国東に引き寄せられた作家達の作品展。作品数の多さや、作品力の素晴らしさに感心しながら見てくれた。	

企画者	ギャラリー花民	
プログラム名	国東に集う人びとと作品作り	
会期	10/29(土)～11/30(水)	
会場	ギャラリー花民	
料金	500円～各体験により異なる	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	26名／50名 (52%)	
実施内容	ギャラリー花民の出展作家によるワークショップを開催。七島蘭コースター作りや、椅子作り、似顔絵描き等、とても喜んで作ってもらえた。	

企画者	Ura.	
プログラム名	Ura.の羊毛動物	
会期	10/29(土)～11/30(水)	
会場	JR別府駅北高架商店街・ReNTReC.	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	830名／設定なし	
実施内容	羊毛造形作家のUra.が、昨年に引き続き北高架商店街とReNTReC.に羊毛造形作品を展示。休日に立ち寄ってくれる来場者が多かった。	

企画者	ことばハウス	(写真なし)
プログラム名	世界中の「遊び文化」を体験しよう!	
会期	10/29(土)～11/27(日)毎週土・日曜・祝日	
会場	ことばハウス	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	5名／50名 (10%)	
実施内容	別府市の小学生に立命館アジア太平洋大学の留学生が各国の遊び文化を教え、体験するプログラムを実施。ことばハウスの運営と並行しての実施だったため、プログラムの実施・運営ができない日が多かった。	

企画者	書肆ゲンシシャ	
プログラム名	驚異の陳列室	
会期	10/29(土)～11/29(火)※水・木曜休み	
会場	書肆ゲンシシャ	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	212名／100名 (212%)	
実施内容	企画者が蒐集した古写真、絵葉書、絵画、彫刻などを店内に展示。古い写真と若手作家の作品のミスマッチを演出した。県外からの来場者が多く、展示品に関して質問も多く寄せられ、終始和やかな雰囲気だった。	

企画者	Nailroom Waka.	
プログラム名	Nailroom Waka.の実態	
会期	10/29(土)～11/28(月)毎週月・金・土・日曜、祝日	
会場	べっふ駅市場	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	80名／100名 (80%)	
実施内容	絵と写真の展示を開催。買い物客の来場者は少なかったが、商店街の方は、普段閉ざされたシャッターが開き、喜んでくれていた。	

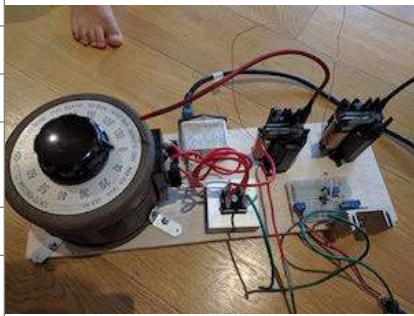
企画者	絵本と珈琲。おにぎりかふえ	
プログラム名	絵本の読み聞かせ	
会期	10/29(土)～11/30(水)毎週水・金・土曜	
会場	おにぎりかふえ	
料金	ドリンク 1 オーダー 250円～ 消しゴムはんこ作り 1 オーダー+500円	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	61名／50名 (122%)	
実施内容	有志で集まった読み手の選書で読み聞かせを行った。真剣な表情で聞く方が多く、消しゴムはんこ作りは和やかな雰囲気だった。	

企画者	将棋処と(ときん)&おにぎりかふえ	(写真なし)
プログラム名	将棋は純日本文化(カルチャー)!	
会期	10/29(土)～11/30(水)※月・火曜休み	
会場	将棋処と(ときん)&おにぎりかふえ	
料金	1,500円	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	13名／10名 (130%)	
実施内容	棋力に合わせた将棋教室を40分体験後、カフェのランチを提供。初めての方には「どうぶつ将棋」から体験してもらった。もっと将棋を指したいという感想が多く、体験を機に将棋教室に通い始める来場者もいた。	

企画者	Hui o Mau olioli o Mapuana	
プログラム名	Enjoy Hula in 別府 VII	
会期	10/30(日)	
会場	JR別府駅構内	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	50名／50名 (100%)	
実施内容	別府駅構内でフラダンスとハワイアンミュージックの生演奏を披露。知人のほか、足を止めて見てくれた駅利用の方もいた。	

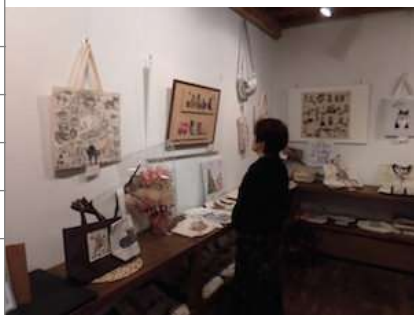
企画者	株式会社 樋口紙器工業所	
プログラム名	紙で作る掛時計「いろっく」ワークショップ	
会期	10/30(日)・11/13(日)	
会場	株式会社 樋口紙器工業所	
料金	1,500円	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	13名／60名 (22%)	
実施内容	盤面に着色して紙製の時計を組み立てた。参加者全員集中して色を塗っていた。また、ワークショップ前の工場見学では、丸い箱に興味を持ってくれた方が多かった。	

企画者	食堂研究所	(写真なし)
プログラム名	研究して食べよう	
会期	10/30(日)～11/27(日)毎週日曜のみ開催	
会場	食堂研究所	
料金	3,500円	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	0名／設定なし	
実施内容	実際に営業している飲食店を、食材の研究・料理ができるレンタルキッチンとして開放する実験的な企画。利用予約がなかったため実施されなかった。	

企画者	サイエンスラボエンマ ミナクチヒロシ	
プログラム名	テスラコイルによるアークスピーカー実験	
会期	10/30(日)～11/27(日)毎週日曜	
会場	地熱観光ラゴ縁間・2階竹芸スペース「たけいろ」	
料金	1,000円	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	6名／40名 (15%)	
実施内容	参加者とともに高周波・高電圧を発生させるテスラコイルを使用して放電実験などを予定していたが、機材故障のため、テスラコイルの代わりにフライバックトランスで実験を行った。	

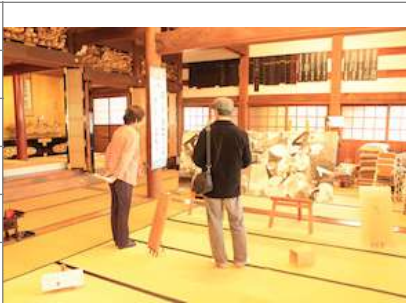
企画者	海の見える丘のアトリエ	
プログラム名	地獄! 極楽! 別府スケッチ	
会期	10/31(月)～11/10(木)	
会場	海の見える丘のアトリエ	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	200名／300名 (67%)	
実施内容	漫画家・田代しんたろうが描いた別府の見所24カ所の漫画風スケッチを展示した。別府在住の来場者も知らない風景があり、再発見を楽しんでいる様子だった。	

企画者	ヨシマツチグサ	
プログラム名	ヨシマツチグサ 1人グループ展	
会期	11/1(火)～11/30(水)※日曜・祝日休み	
会場	坂本長平商店	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	150名／150名 (100%)	
実施内容	老舗の味噌屋全体を使つての作品展示。編物、刺繍、羊毛フェルト、写真、ドローイング、インスタレーション、粘土造形、張子など、様々な素材やジャンルを詰め込み一人グループ展として個展をした。会期中は公開制作も実施。	

企画者	マルヤマチヅコ & K.miho	
プログラム名	二人展「キャット驚き猫だらけ」	
会期	11/1(火)～11/7(月)	
会場	蔵ギャラリーしばた	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	80名／70名 (114%)	
実施内容	猫をテーマにした作品の展示と販売。カフェのオーナーがお菓子とお茶のサービスをしてくれたので、来場者はゆっくりと作品を見てくれた。	

企画者	nelco	
プログラム名	湯上がりおざしき音楽会	
会期	11/2(水)	
会場	末広公民館	
料金	前売 2,000円 当日 2,300円	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	23名／30名 (76%)	
実施内容	平井正也（マーガレットブローズ）と下岡 晃（アナログフィッシュ）の弾き語りライブ。大人19人、子ども4人で座敷で思い思いに楽しむ、アットホームなライブになった。	

企画者	奈美志郎の会	
プログラム名	日本舞踊で「和」の美しいしぐさ・所作を体験しよう！	
会期	11/3(木・祝)	
会場	別府市公会堂 第一研修室	
料金	1,000円	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	7名／25名 (28%)	
実施内容	着物の着付けと日本舞踊を踊る体験を開催。参加人数が目標より少なく不安が多かったが、少なかったおかげで一人ひとりとお話ができ、丁寧に教えることができた。	

企画者	大人美術部	
プログラム名	瓦礫と時	
会期	11/3(木・祝)	
会場	長覚寺	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	20名／25名 (80%)	
実施内容	廃材を使って制作した時計などを展示。1日限りの開催に加え、中心市街地から離れていたためか、来場者は少なかった。	

企画者	馬場りょうた	
プログラム名	見えないから見える素敵な世界。	
会期	11/3(木・祝)～11/6(日)	
会場	トキハ別府店 3階連絡通路、こちカフェむすびの	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	50名／100名 (50%)	
実施内容	手描きのシャツ、トートバッグとアクリル画の展示。トキハ会場は人通りが少なかったが、むすびの会場では食事を待つお客様や、チラシを見て来場してくれた方が多かった。	

企画者	吉森睦子	
プログラム名	思いのままにかたちを焼く パートⅡ	
会期	11/3(木・祝)～11/6(日)	
会場	たんぽぽりん	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	46名／50名 (92%)	
実施内容	陶の立体を展示。「吉森悦治個展」を見た流れで会場へ来てくれた来場者が多かった。 抽象的な陶の形と言葉の短冊の組み合わせを楽しんでくれた。	

企画者	書のしずく	
プログラム名	書×イタリアン料理	
会期	11/3(木・祝)・11/11(金)	
会場	アンティカ・オステリア・クアトロ	
料金	11/3(木・祝) 3,000円 11/11(金) 4,500円	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	13名／30名 (43%)	
実施内容	お品書きの書き方講座(ランチ付き)と、ディナーと竹ペンで文字を書くイベントを開催。食事と書を両方を楽しんでいただけた。	

企画者	咲夜三恵	
プログラム名	神化するイラスト展「ヤオヨロズの館」	
会期	11/3(木・祝)～11/13(日)	
会場	べっふ駅市場	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	184名／100名 (184%)	
実施内容	神話世界のイラストに加え、実在人物を「神化」させたイラストを展示。通りがかりの人が立ち寄ってくれた。会場がバリアフリーだったためか、高齢者・身体障がい者の来場者が多かった。	

企画者	大鶴史朗	
プログラム名	別賓	
会期	11/3(木・祝)～11/13(日)	
会場	ギャラリー別賓	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	50名／50名 (100%)	
実施内容	ギャラリーのオーナーが世界で出会ったアート作品を展示し、世界の“輪”を表現した。	

企画者	豊の国被災地激励芸能集団 絆	
プログラム名	芸能鑑賞会(落語・手品・変面ショー・こま回し)	
会期	11/3(木・祝)・11/23(水・祝)	
会場	11/3(木・祝) 松原一区公民館 11/23(水・祝) 南的ヶ浜公民館	
料金	1,000円	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	20名／60名 (33%)	
実施内容	落語、手品、変面ショー、こま回しを披露した。来てくれた方の反応はよかったが、来場者数自体が少なかった。	

企画者	清島アパート入居者	
プログラム名	清島オープンアパート 2016	
会期	11/3(木・祝)～11/28(月)毎週月・土・日曜、祝日	
会場	清島アパート	
料金	100円(2回目以降入場無料パスポート付き)	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	355名／300名 (118%)	
実施内容	清島アパートのアーティスト8名のアトリエ公開と週末イベントを開催。展示を見てイベントに参加することがきっかけで、来場者と入居者の様々な交流が生まれた。	

企画者	清島アパート入居者	
プログラム名	こんにちは! 清島アパートです。	
会期	11/18(金)	
会場	別府市まちなか交流館	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	35名／30名 (117%)	
実施内容	清島アパート入居者のご挨拶を兼ねた自己紹介イベント。各々の活動紹介やこれからの展開について発表した。	

企画者	アートホーリーメン	
プログラム名	縄文ケムリ	
会期	11/3(木・祝)～11/28(月)毎週月・土・日曜、祝日	
会場	清島アパート	
料金	無料(清島アパート入場料必要)	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	355名／300名 (118%)	
実施内容	インスタレーションとドローイングの展示。	

企画者	小野峰靖	
プログラム名	小野峰靖展	
会期	11/3(木・祝)～11/28(月)毎週月・土・日曜、祝日	
会場	清島アパート	
料金	無料(清島アパート入場料必要)	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	355名／300名 (118%)	
実施内容	フィルムカメラで撮った写真の展示。	

企画者	飯島剛哉、外島貴幸	
プログラム名	カブリキグルマリ	
会期	11/12(土)・11/13(日)	
会場	紙屋公民館	
料金	1,000円、小学生以下500円	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	13名／設定なし	
実施内容	清島アパート入居者の飯島剛哉と東京で活躍する外島貴幸による、着ぐるみを使った演劇作品を発表。	

企画者	関川航平	
プログラム名	アトリエでの公開制作	
会期	11/3(木・祝)～11/28(月)毎週月・土・日曜、祝日	
会場	清島アパート	
料金	無料(清島アパート入場料必要)	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	355名／300名 (118%)	
実施内容	期間中はアトリエで絵画の公開制作を行った。来場者と話す機会が多く、興味を持って企画者の言葉を聞く来場者が多かった。	

企画者	大平 由香理	
プログラム名	末広温泉ギャラリー	
会期	10/29(土)～11/30(水)	
会場	末広温泉	
料金	100円 ※温泉利用にて鑑賞	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	120名／100名 (120%)	
実施内容	企画者の壁画作品が描かれている末広温泉の洗面器に絵を描き展示した。洗面器は会期後も引き続き展示される。11/15(火)は男湯女湯の壁画鑑賞の時間を設けた。	

企画者	勝 正光	
プログラム名	別府てんてく食べあるき・まちあるきガイドウォーク	
会期	11/5(土)・11/19(土)	
会場	JR別府駅構内観光案内所前集合	
料金	1,000円	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	5名／10名 (50%)	
実施内容	通年開催されているまち歩き。町を楽しむクーポン付きのマップを片手に駅周辺を紹介した。	

企画者	中野莉菜、里中透子	
プログラム名	価値、となり人	
会期	10/29(土)～11/28(月)毎週月・土・日曜	
会場	べっぶ駅市場	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	416名／400名 (104%)	
実施内容	写真と詩を掛け合わせた2人展。駅から近いので外国人旅行客が来ることも。隣の魚屋の売り込みのかけ声や電車の音など、いろいろな生活音や匂いが染み込んでくる空間で面白みがあった。	

企画者	旅する服屋さん メイドイン	
プログラム名	湯遍路街道温泉染の旅	
会期	10/29(土) 開幕&出発式、11/30(水)～12/7(水)報告展、12/7(水)報告会	
会場	風穴	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	70名／100名 (70%)	
実施内容	湯遍路を行いながら温泉で布を染め、その結果の報告展を開催。温泉名人や知人や口コミで来場する方が多かった。	

企画者	竹田ニットイング倶楽部	
プログラム名	おいしいニットに出会う冬	
会期	11/3(木・祝)～11/5(土)	
会場	山田別荘	
料金	鑑賞無料、ワークショップ2,500円	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	80名／70名 (114%)	
実施内容	ニット作品の展示と、編み物のワークショップを開催。別府在住で女性来場者数が多く、ニットの作品を手にとったり、編み方の質問をされたり、興味深そうに見ていただいた。	

企画者	MAMAGOTO	
プログラム名	MAMAGOTO体験ワーク&展示会	
会期	11/5(土)	
会場	えきマチ1丁目別府 B-Passage中央広場	
料金	鑑賞無料、ワークショップ500円～	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	15名／設定なし	
実施内容	消しゴムハンコや羊毛フェルト等のワークショップと作品展示を開催。ワークショップ参加者は多くはなかったが、立ち止まり作品を見る方は多かった。	

企画者	おじぎ草(小笠原 洋)	
プログラム名	おじぎ☆ポエトリーロックフェス	
会期	11/5(土)	
会場	ギャラリー・エ・カフェ・パ・マル	
料金	投げ銭	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	35名／20名 (175%)	
実施内容	約10組の出演者による、様々な表現のポエトリーリーディングを行った。長丁場にもかかわらず最後まで見てくれる来場者が多かった。	

企画者	木村祐樹	
プログラム名	□■展	
会期	11/5(土)・11/6(日)	
会場	富士屋Gallery一也百	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	160名／100名 (160%)	
実施内容	会場の1、2階を使って、平面と立体の作品を展示。同会場の他イベントの参加ついでに立ち寄った方が多く、企画者と交流をしながら楽しい時間を過ごした。	

企画者	olovo	
プログラム名	ワークショップ ロゼットづくり	
会期	11/5(土)・11/9(水)・11/12(土)・11/16(水)	
会場	雑貨喫茶olovo	
料金	1,500円	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	6名／7名 (86%)	
実施内容	お茶を楽しみながら、好きなパーツを組み合わせたロゼットブローチを作る体験。赤ちゃん連れの参加者もいて、気軽に楽しい雰囲気だった。	

企画者	古民家研究会	
プログラム名	古民家探訪ツアー	
会期	11/5(土)～11/26(土)毎週土曜	
会場	JR別府駅集合	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	25名／設定なし	
実施内容	中心市街地から朝見地区にかけて、点在する古民家を巡るツアーを開催。最終地点の古民家では実際に室内に入ってお茶を振る舞った。	

企画者	ビタミンメイックスクール	
プログラム名	【美肌】別府温泉de手づくり化粧水体験	
会期	11/5(土)・11/26(土)	
会場	別府駅前クリニック2階レンタルスペース「カサロン」	
料金	2,500円	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	11名／24名 (46%)	
実施内容	別府の温泉水を使った化粧水制作体験。化粧水の使い方、メイク方法の指導も実施した。	

企画者	明石文昭堂	
プログラム名	スクラップブックングで飾る(ラウンドGIFT BOX フレーム)	
会期	11/6(日)	
会場	明石文昭堂	
料金	1,000円	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	11名／設定なし	
実施内容	店舗内でスクラップブックングで飾るギフトボックスを制作するワークショップを開催。	

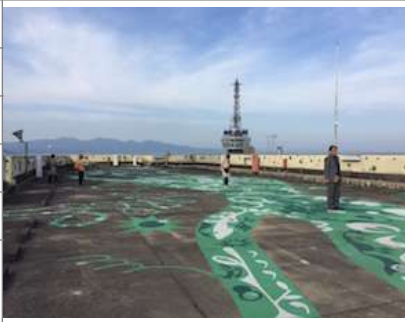
企画者	別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会	
プログラム名	目 In Beppu	
会期	11/5(土)～12/2(金)	
会場	別府市役所内	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	1,122名／1,500名 (75%)	
実施内容	芸術活動チーム【目】によるツアー式展覧会を別府市役所内で開催。詳しくはp40を参照。	

企画者	別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会	
プログラム名	「目 In Beppu」アーティストトーク	
会期	11/11(金)	
会場	別府ブルーバード会館3階 フレックスホール	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	70名／50名 (140%)	
実施内容	「目 In Beppu」招聘アーティスト【目】によるトークイベントを開催。	

企画者	NPO法人 BEPPU PROJECT	
プログラム名	「まちのお風呂を地域の宝に! みんなでつくる、みんなのお風呂」壁画作品のお披露目会	
会期	11/3(木・祝)	
会場	東町温泉 2階 浜脇一丁目二区公民館	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	41名／30名 (137%)	
実施内容	JR東別府駅近くの共同温泉、東町温泉にイラストレーター・網中いづるの壁画が完成。 そのお披露目会を開催した。 ※助成：別府市協働のまちづくり事業補助金	

企画者	NPO法人 BEPPU PROJECT	
プログラム名	ラニ・マエストロ アーティストトーク	
会期	11/3(木・祝)	
会場	不老泉2階集会室	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	22名／30名 (73%)	
実施内容	別府現代芸術フェスティバル2009「混浴温泉世界」出展アーティスト、ラニ・マエストロのトークを開催。	

企画者	NPO法人 BEPPU PROJECT	
プログラム名	KASHIMA 2016 BEPPU ARTIST IN RESIDENCE	
会期	10/29(土)～11/28(月)※火・水曜休み	
会場	旧元町公民館 1 階	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	528名／500名 (106%)	
実施内容	台湾の作家、ピーター・シェイが別府に2ヶ月間滞在した際に制作したお面の作品を、今は使用されていない共同温泉を会場に展示。 ※文化庁 平成28年度「アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流促進事業」	

企画者	NPO法人 BEPPU PROJECT	
プログラム名	アートウォーク	
会期	11/12(土)	
会場	JR別府駅 油屋熊八像前集合	
料金	大人1,000円、小学生500円、幼児無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	4名／10名 (40%)	
実施内容	中心市街地に点在する壁画やふすま絵などのアート作品を解説付きで巡るまちあるきツアーを開催。	

企画者	NPO法人 BEPPU PROJECT	
プログラム名	ラジオジャーニー「音で旅する別府」	
会期	10/29(土)～11/30(水)※火曜休み	
会場	platform04 SELECT BEPPU	
料金	500円	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	28名／20名 (140%)	
実施内容	2013年度のKASHIMA事業の滞在制作アーティストである、アルテラジオの音声作品を体験しながらまちあるきを楽しむ。	

企画者	NPO法人 BEPPU PROJECT	
プログラム名	アートに泊まる-浜脇の長屋-	
会期	10/29(土)～11/30(水)	
会場	別府市浜脇地区	
料金	大人(中学生以上) 1 名6,480円、 2 名10,800円	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	19組／7組 (270%) ※ 1 泊につき 1 組 2 名まで宿泊可能	
実施内容	別府現代芸術フェスティバル2012「混浴温泉世界」参加アーティスト、廣瀬智央による作品「浜脇の長屋」を、宿泊できるアート作品として宿泊者限定で公開。	

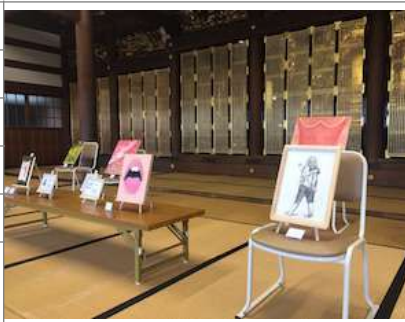
企画者	MOAPU	
プログラム名	APU in Galaxy	
会期	11/6(日)～11/12(土)	
会場	トキハ別府店 3 階連絡通路	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	30名／30名 (100%)	
実施内容	立命館アジア太平洋大学の美術サークルの学生が、Galaxyをテーマに作品を展示。会場は3階のエスカレーターの目の前ということもあり、目に付きやすい場所だった。	

企画者	山脇益美	
プログラム名	絶景サンデー	
会期	11/6(日)～11/27(日)毎週日曜	
会場	清島アパート前集合	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	30名／16名 (188%)	
実施内容	各回ごとにテーマを設けて参加者と散歩をし、ある地点で詩作と朗読を行った。 11/27(日)は「ヨシマツチグサ 1人グループ展」とコラボをして朗読パフォーマンスを開催した。	

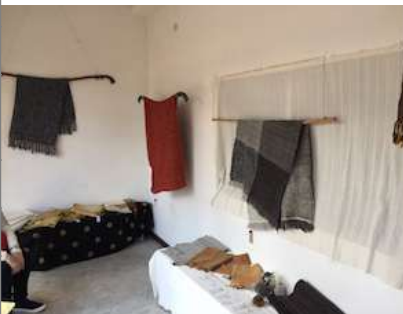
企画者	日本文理大学 近藤研アンド足立研	
プログラム名	ブンリ派デザイン展	
会期	11/7(月)～11/11(金)	
会場	えきマチ1丁目別府 B-Passage中央広場	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	150名／150名 (100%)	
実施内容	建築空間を研究する近藤研、コンピューターグラフィックスを研究する足立研の合同作品展。通りかかった方が熱心に作品を鑑賞する様子がみられた。	

企画者	Luminous Bullet	
プログラム名	サイリウムダンスワークショップ	
会期	11/9(水)～11/23(水・祝)毎週水・土曜	
会場	不老泉2階集会室	
料金	300円	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	5名／10名 (50%)	
実施内容	サイリウムを使ったダンス(ヲタ芸)の動きのレクチャーをして楽しさを体験してもらうワークショップ。参加者が少なく、知人の参加者がほとんどだった。	

企画者	山田健二	
プログラム名	BSIM(別府地熱消化器美術館)vol. 2	
会期	11/10(木)～11/30(水)※火曜休み	
会場	platform05	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	200名／500名 (40%)	
実施内容	2011年に発掘された地下トンネルを美術館化したプロジェクトの記録作品と、米人地下施設・都市研究家、写真家のブラッドリー・ギャレットの作品を展示。	

企画者	akari.iwamura	
プログラム名	おどれば、いいのに。	
会期	11/11(金)・11/12(土)	
会場	長覚寺	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	15名／5名 (300%)	
実施内容	ダンスの振付け段階で描かれたラフスケッチを展示。	

企画者	オノデラマサト	
プログラム名	オノデラマサトのイラスト展@こちカフェむすびの	
会期	11/11(金)～11/23(水・祝)※第3水・木曜休み	
会場	こちカフェむすびの	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	200名／100名 (200%)	
実施内容	これまでに制作したグッズと、紙でできた時計の展示・予約販売をした。楽しい雰囲気 の展覧会だった。	

企画者	のなかたんぼぼ	
プログラム名	～嬉しい冬のおくりもの～河野 恵美子の手仕事	
会期	11/11(金)～11/29(火)※16(水)・17(木)・24(木) 休み	
会場	たんぼぼりん	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	50名／100名 (50%)	
実施内容	原毛(アルパカ・羊等)から手紡ぎして制作した織物の展示。織物に興味のある来場者が多かった。	

企画者	別府妖怪物語	
プログラム名	あなたの記憶を妖怪画にします	
会期	11/12(土)	
会場	寿温泉 2 階公民館	
料金	800円	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	3名／15名(20%)	
実施内容	参加者に別府での思い出を話していただき、その話をもとにした妖怪画を画家の二宮俊泰が描く内容。少ない人数だったが参加者とじっくり話のできたので結果的に良かった。	

企画者	チーム源泉過激流し	
プログラム名	泉都で温泉トーク(温泉マニアトーク)	
会期	11/12(土)	
会場	茶房たかさき	
料金	無料(投げ銭)	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	17名／20名 (85%)	
実施内容	全国の温泉について写真や映像を交えながら温泉マニア3名がトークをした。知り合いが多いなか、全国を巡っている方も来場してくれ、1日で終わるのはもったいないとの言葉をいただいた。	

企画者	ここちカフェむすびの	
プログラム名	むすびのチャレンジ朗読会	
会期	11/12(土)	
会場	ここちカフェむすびの	
料金	500円	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	14名／10名 (140%)	
実施内容	題材や手法は問わず、出演者が自由な表現で朗読を披露。初めての試みで始めは緊張した雰囲気だったが、時間が経つにつれ暖かい雰囲気になった。	

企画者	KannawawaCollege	
プログラム名	第2回 鉄輪スケッチ大会	
会期	スケッチ大会 11/13(日) 展示 11/18(金)～11/20(日)	
会場	鉄輪エリア 展示 富士屋Gallery一也百他	
料金	鑑賞無料 スケッチ大会 大人1,000円、大学生以下500円	
来場人数／目標来場人数 (達成率)	110名／100名 (110%)	
実施内容	秋の鉄輪の風景を一日スケッチする企画。審査委員には新見 隆、二宮圭一、伊藤昭博を招いた。	

企画者	日本文理大学美術部作品展	
プログラム名	日本文理大学 美術部	
会期	11/12(土)・11/13(日)	
会場	えきマチ1丁目別府 B-Passage中央広場	
料金	無料	
来場人数／目標来場人数(達成率)	150名／150名 (100%)	
実施内容	日頃の活動の成果展と、書道の楽しさを感じてもらえるような書道のパフォーマンスを実施。学生と来場者との対話・交流が活発に行われた。	

企画者	吉島 真太郎	
プログラム名	ある若き詩人のためのレクイエム	
会期	11/12(土)～11/30(水)毎週土・日曜および11/30(水)	
会場	市民ギャラリーべっぷ	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	46名／30名 (153%)	
実施内容	ミクストメディアのオブジェを展示。	

企画者	APUバトンサークル	
プログラム名	APU in wonderland	
会期	11/13(日)	
会場	トキハ別府店 大屋根の下	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	80名／50名 (160%)	
実施内容	立命館アジア太平洋大学のサークル3団体による、ダブルダッチやバトントワリング、オーケストラなどのパフォーマンスを開催。地元の方々をはじめ、多くの方が足を運んでくれた。	

企画者	レザー イフタカー	
プログラム名	写真展	
会期	11/13(日)～11/18(金)	
会場	11/13(日)～11/15(火) 風穴 11/16(水)～11/18(金) 立命館アジア太平洋大学スチューデントホール	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	380名／500名 (76%)	
実施内容	立命館アジア太平洋大学30名の学生による写真展。別府在住の方、学生、教職員の来場者が多かった。	

企画者	梅本美術研究所	
プログラム名	梅本美術研究所作品展 vol. 5	
会期	11/15(火)～11/20(日)※11/16(水)休み	
会場	トキハ別府店 3階連絡通路	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	50名／100名 (50%)	
実施内容	絵画教室の生徒たちの作品展。多くの保護者に見ていただいた。	

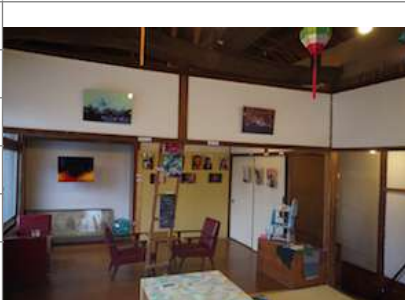
企画者	猫べっふ	
プログラム名	猫べっふ展	
会期	11/15(火)～11/30(水)	
会場	野上本館、かんなわ ゆの香、湯屋えびす	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	900名／1000名 (90%)	
実施内容	別府市の旅館3館で猫の写真を展示した。チラシを見て来場した方はもちろん、旅館利用者も写真を見て喜んでくれ、「癒された」との声を多くいただいた。	

企画者	盲目の噺屋 ザトー	
プログラム名	秋の夜長は18kin 落語会 2016	
会期	11/18(金)	
会場	秋葉サロン	
料金	700円	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	20名／30名 (67%)	
実施内容	落語3席を披露した。知人の来場者が多かったが、企画の噂を聞いて来場した方も複数人いた。	

企画者	Beppu凱旋映画祭実行委員会	
プログラム名	Beppu凱旋映画祭	
会期	11/18(金)～11/20(日)	
会場	別府ブルーバード劇場	
料金	1,000円～	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	300名／1,000名 (30%)	
実施内容	海外映画祭での受賞や上映経験のある監督の作品を上映。塚本晋也監督、俳優の津田寛治など、豪華ゲストを招いてトークを行った。普段見られない作品を真剣に鑑賞する来場者が多かった。	

企画者	宮本博行	
プログラム名	円境／circle boundary	
会期	11/18(金)～11/20(日)、11/23(水・祝)～11/27(日)	
会場	旧元町公民館	
料金	200円	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	108名／160名 (68%)	
実施内容	公民館の空間を使って、一見なにもないような極めて小さく密やかな作品を展示。	

企画者	湯本タマ	
プログラム名	第4回湯本プライベートミュージアム所蔵品展	
会期	11/19(土)・11/20(日)	
会場	紙屋公民館	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	24名／20名 (120%)	
実施内容	物々交換を経て作ったオブジェの展示。作品は来場者の手持ちの品物と交換でき、作家と交流しながら多くの作品を手にとってくれた。	

企画者	Bill Engebretson	
プログラム名	湯けむりを通してみる別府に想いを巡らせて	
会期	11/19(土)～11/27(日)※月・火曜休み	
会場	スパイス食堂クーポノス	
料金	1オーダー	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	74名／設定なし	
実施内容	米国から別府へ移住した8年の間に制作した写真とCG作品を展示。	

企画者	かわくぼみちこ・花野	
プログラム名	かわくぼみちこ・花野 音のとなり展	
会期	11/19(土)～11/26(土)	
会場	蔵ギャラリーしばた	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	70名／100名 (70%)	
実施内容	書と油画のコラボ展。知り合いやパンフレットを見て来てくれた来場者が多く、励みになる言葉を多数いただいた。	

企画者	新宅和音	
プログラム名	新宅和音 個展	
会期	11/19(土)～11/27(日)※水・木曜休み	
会場	書肆ゲンシシャ	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	110名／100名 (110%)	
実施内容	少女がモチーフの絵画を古書店で展示。会場にあるコレクションと合わせて、非常に雰囲気のある空間となった。	

企画者	Eugene Wanyama	
プログラム名	Dashiki	
会期	11/19(土)・11/20(日)・11/26(土)・11/27(日)	
会場	えきマチ1丁目別府 B-Passage中央広場	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	25名／50名 (50%)	
実施内容	アフリカの民族衣装「ダシキ」をテーマにした写真展を開催。写真とアフリカのこゝろを合わせて展示した。	

企画者	立花泰香	
プログラム名	たちーの高架下画廊	
会期	11/19(土)～11/30(水)	
会場	JR別府駅北高架商店街	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	310名／設定なし	
実施内容	商店街の一角にミニ画廊を設置し、古紙を用いたコラージュ作品やオブジェの展示を行った。	

企画者	劇団絆	
プログラム名	劇団絆ミュージカルコンサート in トキハ	
会期	11/20(日)	
会場	トキハ別府店 大屋根の下	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	15名／50名 (30%)	
実施内容	複数のミュージカル作品から7曲を選んで披露。座って見てくれた方は入れ替わりも含めて15名程度だったが、立ち止まって遠くから見てくれる方も多く、手拍子をしてくれた方もいた。	

企画者	ここちカフェむすびの	
プログラム名	むすびの養生塾特別篇「中国茶を楽しむ」	
会期	11/20(日)	
会場	ここちカフェむすびの	
料金	3,500円	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	6名／10名 (60%)	
実施内容	講師による中国茶の歴史や効能の講義と、お茶を入れる実践を行った。健康に関心のある参加者が多く、熱心に講義を聞いている様子だった。	

企画者	耀の会 コスモスグループ	(写真なし)
プログラム名	前田健治 ピアノリサイタル in Beppu	
会期	11/20(日)	
会場	富士屋Gallery一也百 ホール	
料金	2,500円	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	75名／80名 (94%)	
実施内容	大分県出身のピアニスト・前田健治のピアノコンサートを開催。来場者は演奏に耳を傾けとても喜んでいる様子だった。	

企画者	木下賢也(たぶらや代表)	(写真なし)
プログラム名	みんなで叩こう ダルブッカワークショップ	
会期	11/20(日)	
会場	末広公民館	
料金	2,000円	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	9名／10名 (90%)	
実施内容	アラビックパーカッションのワークショップと演奏を開催。	

企画者	おか かおり	
プログラム名	おか かおり個展	
会期	11/20(日)～11/27(日)	
会場	玉井ビル 3 階	
料金	投げ銭	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	80名／100名 (80%)	
実施内容	ビルの 1 フロアを借りてインスタレーション作品の展示。昨年度の展示を見てからの方、別府妖怪物語の活動で知り合った方の来場が多かった。	

企画者	炭谷 宇紀子、炭谷早紀	
プログラム名	恒星 うちなる輝き～Beppu Univers Stellaire☆†～	
会期	11/21(月)～11/30(水)	
会場	トキハ別府店 3 階連絡通路	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	450名／300名 (150%)	
実施内容	会場を和紙で包み、瞑想の小部屋を設置。写真作品に加えて来場者にメッセージを貼ってもらいインスタレーションを実施した。	

企画者	北村成美	
プログラム名	踊る女将・しげやんのおどる山田別荘2016	
会期	11/23(水・祝)	
会場	山田別荘	
料金	2,000円	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	27名／25名 (108%)	
実施内容	振付家・ダンサーの北村成美によるダンスパフォーマンスイベント。ダンスに加え、山田別荘の足湯、お菓子で来場者をもてなした。	

企画者	上田 珠真子	
プログラム名	個展「なぎさちゃん」	
会期	11/23(水・祝)～11/27(日)	
会場	紙屋公民館	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	124名／80名 (155%)	
実施内容	「おばあちゃん」を被写体にした写真を含むインスタレーションの展示。高齢者の鑑賞者が多く、それぞれ思い思いの体験をした様子だった。	

企画者	松崎 芙美子	
プログラム名	白磁・松崎 芙美子のしごと	
会期	11/23(水・祝)～11/27(日)	
会場	富士屋Gallery一也百	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	50名／100名 (50%)	
実施内容	白磁作品の展示・販売を開催。会場自体に歴史と趣があるので、来場者も落ち着いて作品を鑑賞している様子だった。	

企画者	別府ダイバーシティアカデミア実行委員会	
プログラム名	別府ダイバーシティアカデミア	
会期	11/24(木)※11/23(水・祝)～11/27(日)関連イベント有り	
会場	別府市公会堂、他	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	1,500名／1,200名 (125%)	
実施内容	海外からの移住者が多い別府の特徴に着目して、様々なテーマやゲストとともに別府の個性を浮き彫りにするイベントを実施した。	

企画者	中尾清恵	
プログラム名	フェリシモ「Happy Toys Project」	
会期	11/25(土)～11/27(日)	
会場	おにぎりかふえ	
料金	1 オーダー	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	4名／6名 (67%)	
実施内容	ぬいぐるみの展示とあみぐるみ制作のワークショップを開催。カフェの待ち時間を利用してワークショップに参加する来場者もいた。	

企画者	橋本次郎	
プログラム名	サウンド・インスタレーション「別府」	
会期	11/25(金)～11/27(日)	
会場	長覚寺	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	40名／50名 (80%)	
実施内容	別府に滞在して出会った「音」で構成されたインスタレーション作品の展示。中心地から離れているため来場者は多くなかったが、昨年も来場した方や、パンフレット片手に来た方など、とても熱心に作品を聞いていただけた。	

企画者	世界に広めるらくがきプロジェクト	
プログラム名	世界に広めるらくがきプロジェクト IN 別府	
会期	11/26(土)・11/27(日)	
会場	べっふ駅市場	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	50名／100名 (50%)	
実施内容	空きテナントの壁、床、天井に色とりどりのチョークで思いきりらくがきをする企画。 子どもから大人、芸大生やアーティストまで楽しんでくれた。	

企画者	Luminous Bullet	
プログラム名	ルミバレワンマン～アートマンスの名前を借りました～	
会期	11/26(土)	
会場	別府ブルーバード会館 3階 フレックスホール	
料金	無料	
来場人数 ／目標来場人数(達成率)	35名／180名 (19%)	
実施内容	サイリウムダンス(ヲタ芸)を見たことがない方や、見るのが好きな方に向けたワンマンライブ。約1時間光と音のパフォーマンスを披露した。	

2-3. 運営について

1. サポート内容

「ベップ・アート・マンス 2016」に登録をしたプログラム企画者に対し、事務局より以下のサポートを行った。

プログラム実施に関わる相談およびサポート

プログラム登録申請書(申請期間：6月1日～7月11日)の提出後、事務局によるヒアリング(面談)を行い、企画者の意向を確認しながら未確定事項の決定や、実現性、安全性の確認を行った。また、登録決定からプログラム開催直前まで企画のブラッシュアップに協力した。

無料およびディスカウント料金で利用できる会場(提供会場)の紹介

実行委員会が企画者に紹介する会場として8ヶ所を用意した。

- ・無料で使用できる会場…茶房たかさき(朝見地区)、長覚寺(浜脇地区)、トキハ別府店専門店棟 3 階連絡通路そば(中心市街地)、トキハ別府店 1 階大屋根の下(中心市街地)
- ・ディスカウントで利用できる会場…別府ブルーバード会館 3 階 フレックスホール(中心市街地)、えきマチ 1 丁目別府 B-Passage 中央広場(中心市街地)、富士屋 Gallery 一也百 ギャラリースペース(鉄輪地区)、富士也 Gallery 一也百 ホール(鉄輪地区)。また、提供会場以外にも使用できる会場を複数ヶ所紹介をした。

広報業務の一部代行

- ・全プログラムが掲載されたパンフレット(12,000部)や事業全体を告知するポスター(500部)を作成し、別府市内や近郊を中心に全国へ配布した。
- ・WEBサイトで、個別のプログラムの情報提供や予約受付を行った。
- ・SNS(Twitter、Facebook)を通じた情報発信を行った。
- ・記者発表を開催し、企画者が記者に対し直接告知できる機会を作った。
- ・会場目印ののぼり(100枚)、富士見通りの巨大看板(1枚)、駅前通りの街灯にのぼり(64枚)を設置した。

総合インフォメーションセンター

開催中はJR別府駅構内に有人のインフォメーションセンターを設け、事業のPRや問合せ対応をした。



<総合インフォメーションセンター>

問合せ受付・連絡先窓口などの事務局業務

企画者が希望する場合、プログラムの予約受付や問合せ対応を事務局が代行した。予約は電話、FAX、WEBサイト、総合インフォメーションセンターにて受け付けた。

週刊チラシの発行

パンフレットとは別に、1週間分の予定を掲載したチラシ「ベップ・アート・マンス」を作り、総合インフォメーションセンターを中心に配布した(A3サイズ両面モノクロ/全4号/1,200部)。また、WEBサイトよりダウンロードを可能にした。2013年に引き続き4度目の取り組みで、2014年より市民ボランティアに紙面作成を託している。



<パンフレット表紙>



<パンフレット プログラム紹介ページ>



<WEBサイト>



<週刊チラシ 紙面>

2. 加盟店

プログラム実施会場に近い小売店・小規模飲食店を中心に、本事業に賛同して下さる店舗を「ベップ・アート・マンス 2016 加盟店」とし、パンフレットやWEBサイトで紹介した。加盟店には、店頭用のポップを配布し掲示していただいた。2016年は45店舗の加盟があった。



<加盟店ポップ>



<パンフレットに掲載した店舗情報>

2-4. 「ベップ・アート・マンス 2016」意見交換会の開催

市民による主体的な運営を目指し、プログラム企画者を中心に、地域の方等を交え、事業についての意見交換、企画者同士の交流を図る「ベップ・アート・マンスをつくろう会」を実施した。本年度は計13回(2013年より通算69回)の実施で計91名が参加した。事務局が日時・場所を決定し、任意参加行事として呼びかける。場所の提供や司会進行は事務局が行なった。

回	日程	参加人数	会場
57	2016/4/15(金)	4	事務局(BEPPU PROJECT事務所内)
58	2016/4/25(月)	5	事務局(BEPPU PROJECT事務所内)
59	2016/5/16(月)	8	事務局(BEPPU PROJECT事務所内)
60	2016/5/25(水)	3	事務局(BEPPU PROJECT事務所内)
61	2016/6/5(日)	7	platform07「別府竹細工職人工房」※兼説明会
62	2016/6/15(水)	22	platform07「別府竹細工職人工房」、事務局(BEPPU PROJECT事務所内) ※説明会と兼ねて昼間と夕方の2部構成
63	2016/6/25(土)	6	JR別府駅北高架商店街 SLOWLY MARKET ※兼説明会
64	2016/7/5(火)	4	事務局(BEPPU PROJECT事務所内)
65	2016/7/25(月)	2	事務局(BEPPU PROJECT事務所内)
66	2016/8/5(金)	2	事務局(BEPPU PROJECT事務所内)
67	2016/9/15(木)	15	事務局(BEPPU PROJECT事務所内)
68	2016/10/5(水)	2	事務局(BEPPU PROJECT事務所内)
69	2017/1/20(金)	11	事務局(BEPPU PROJECT事務所内)



<「ベップ・アート・マンスをつくろう会」の様子>

2-5. サポートへの評価

プログラム終了後、プログラム企画者へアンケートを実施した。回収枚数は79枚。

これまでにプログラムを登録したことがあるか	はい…54% いいえ…46%
「ベップ・アート・マンス」という取り組みへの評価	大変よい…85% よい…13% 普通…2%
「ベップ・アート・マンス」に登録してよかったか	大変よかった…70% よかった…23% 普通…4% よくなかった…3%
また「ベップ・アート・マンス」へ登録したいか	はい…92% いいえ…8%
事務局の対応に対する評価	大変よかった…71% よかった…24% 普通…1% よくなかった…3% 大変よくなかった…1%
広報業務の一部代行による効果があったか	はい…89% いいえ…11%
提供会場の取り組みをどう思うか	大変よかった…70% よかった…17% 普通…13%
他の企画者のプログラムに参加したか	はい…61% いいえ…39%
「ベップ・アート・マンスをつくろう会」には参加したか	はい…27% いいえ…73%

- ・会場側が「ベップ・アート・マンス」に対して信頼を持ってくださっているところがいい。
- ・遠方からの参加のため、現地で広報活動をしていただけるのはとても心強いです。
- ・新聞やテレビの影響力が強い大分県においては、事務局のSNSを通じた広報活動に意味があるのかわからない。これまで以上に新聞やテレビへの露出を増やしてほしい。
- ・もっとたくさんの会場があれば良いと思います。
- ・別府市在住以外のアーティストが参加しやすい。
- ・駅の窓口で紹介していただいたり、パンフレット片手の見学者がかなりいました。
- ・金銭的に不安のある団体として提供会場は大変ありがたいものでした。
- ・別府市内の様々な施設に協力をあおぎ、巻き込むのはとても良い。
- ・現地の場所についていろいろと情報を得られる、そして自身の作品展示に合った場所を選べる。
- ・遠方からの参加という形にはなったが、「ベップ・アート・マンス」に関わることでよりたくさんの方々を知り合うことができた。別府を知る良いきっかけとなった。
- ・市民とアーティストの垣根のない芸術祭は、今後、市民の社会的活動、意識の向上を促し、実社会を変革する動力や活気に成り得ると考えます。更に多くの市民参加を得るにはどのようにすべきかの課題も多いなか、芸術祭の更なる発展を祈ります。

2-6. 来場者について

1. 来場者数

来場者は13,225名を数えた。事業開始以降の来場者数は以下のとおり。

開催年	会期	来場者数
2010年	11/1(月)～11/30(火)[30日間]	3,930名
2011年	11/1(火)～11/30(水)[30日間]	11,751名
2012年	10/6(土)～12/2(日)[58日間]※	53,736名
2013年	11/1(金)～11/30(土)[30日間]	25,147名
2014年	11/1(土)～11/30(日)[30日間]	22,134名
2015年	7/18(土)～9/27(日)[72日間]※	53,474名

※2012年、2015年は「混浴温泉世界」に合わせて、約2ヶ月間の開催

来場者数は例年より減少しているが、次の2点が理由であると考え。①今回の登録プログラムは少人数制の体験ワークショップが多かったこと ②2011年から2015年までの総来場者数の約41.4%(2011年2.6%、2012年25.2%、2013年39.7%、2014年66.7%、2015年72.7%)が別府市立図書館と別府市美術館の来場者数であり、今回はここを会場としたプログラムが登録されなかったこと によって、実施年それぞれを「(総来場者数)－(別府市立図書館+別府市美術館)」で算出すると、例年並みの来場数であるといえる。

2. アンケート結果

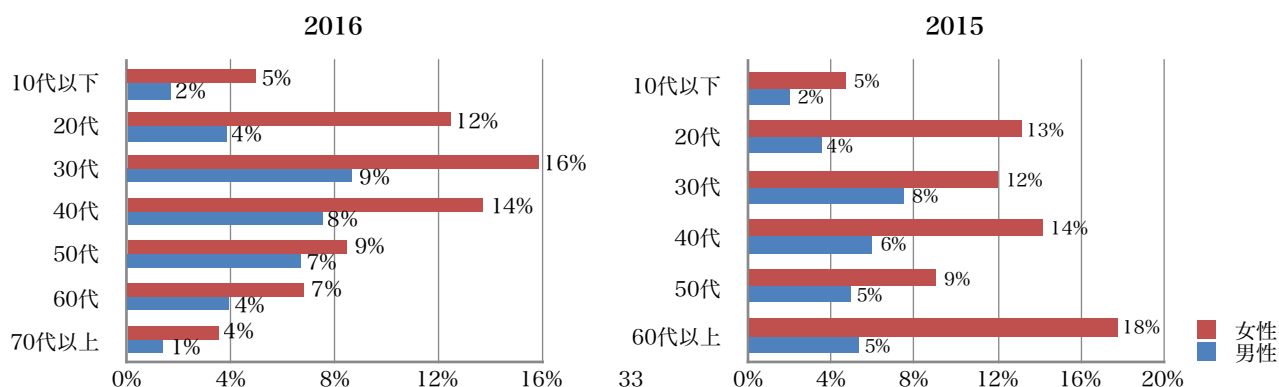
会期中、来場者に下記の質問を記したアンケートを実施した。但し「目 In Beppu」の来場者アンケートは一部、別様式のものを作成している。それぞれのアンケート回収枚数は1,845枚(「ベップ・アート・マンス 2016」：723枚、「目 In Beppu」：1,122枚)だった。「ベップ・アート・マンス 2015」回収枚数は513枚。「目 In Beppu」の来場者アンケートのみに記載されている設問に関してはp45を参照。

※小数点以下の記載がないものに関しては四捨五入している。

1. 年齢、性別、居住地、滞在期間
2. 今回のプログラムのことをどこで知ったか(複数回答可)
3. 「ベップ・アート・マンス」のことをいつから知っていたか
4. 「ベップ・アート・マンス」にこれまで参加したことがあるか
5. 「ベップ・アート・マンス」のことを何で知ったか(複数回答可)
6. 他に参加した、または参加する予定のプログラムはあるか
7. 「ベップ・アート・マンス」という取り組みへの評価
8. 7の理由
9. 次回はプログラムの企画者として参加したいと思うか
10. 「目 In Beppu」には参加したか

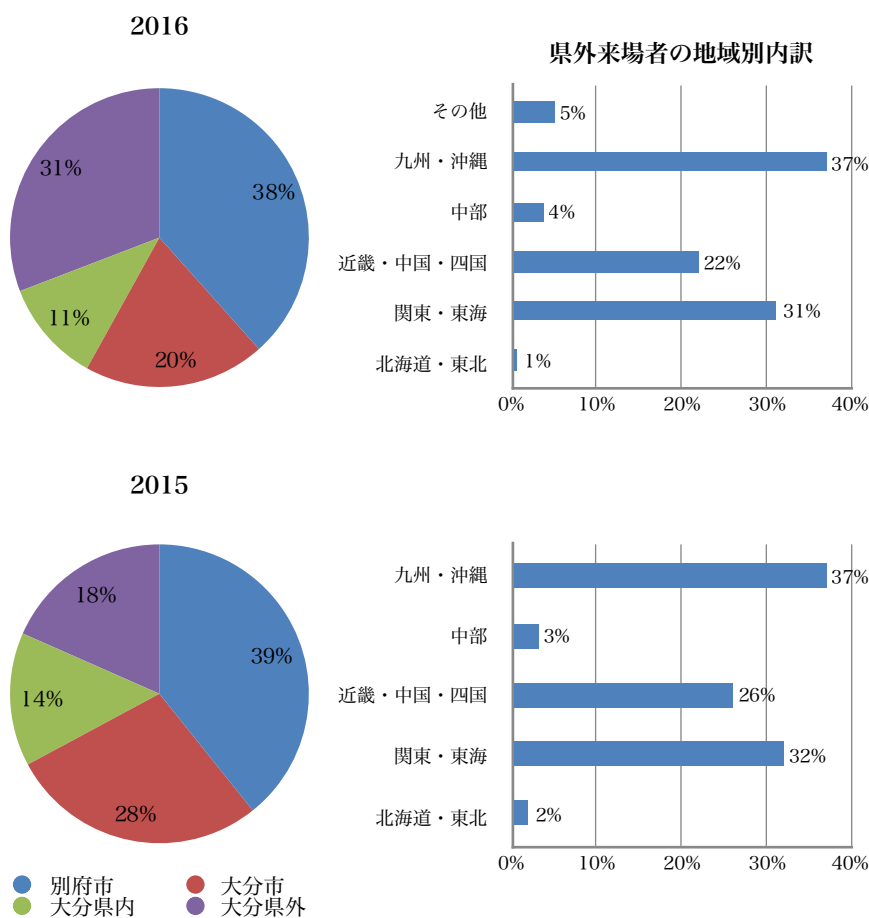
1-1. 年齢、性別

昨年と比較し、60代以上の来場者が減少し、30代の来場者が伸びている。



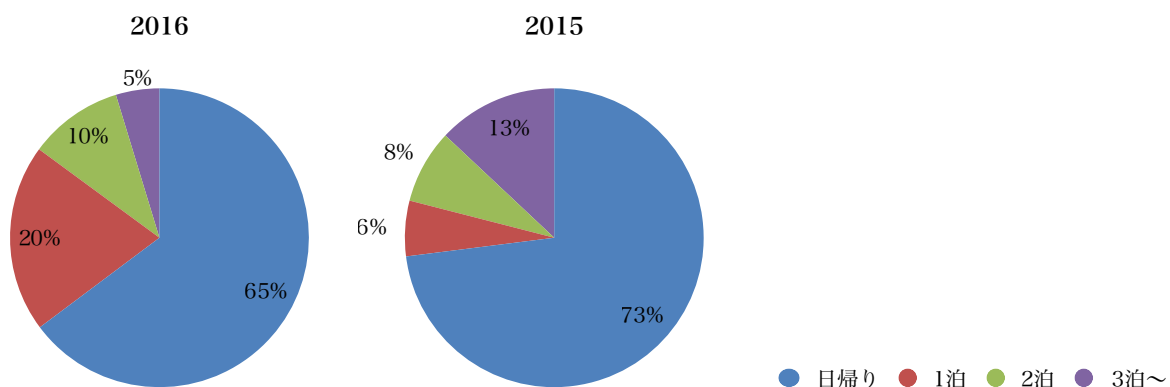
1-2. 居住地

昨年と比較して県外来場者が微増した。県外来場者の地域別内訳をみると、関東、関西という順は昨年と変わっていない。



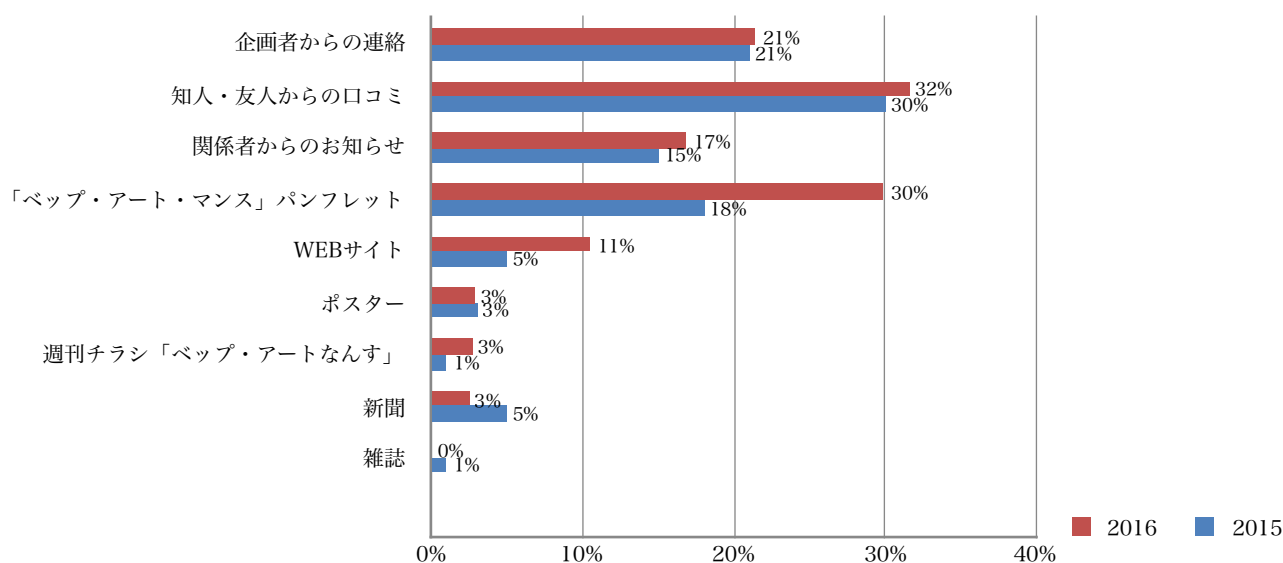
1-3. 滞在期間

2015年と比較して日帰り客は8%減少したが、「1泊」と回答した来場者が14%伸びている。



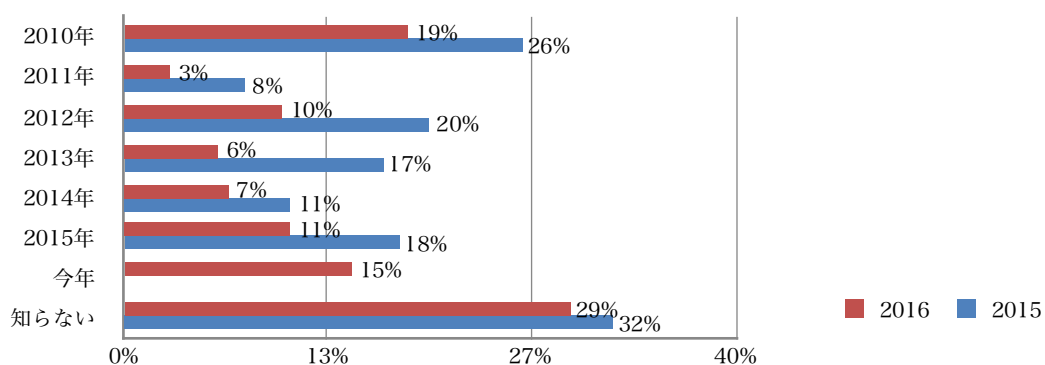
2. 今回のプログラムのことをどこで知ったか(2016のみ複数回答可)

「ベップ・アート・マンス」パンフレットを見て知った来場者が増加している。「雑誌」を選択した来場者は昨年と同様ほとんどない。



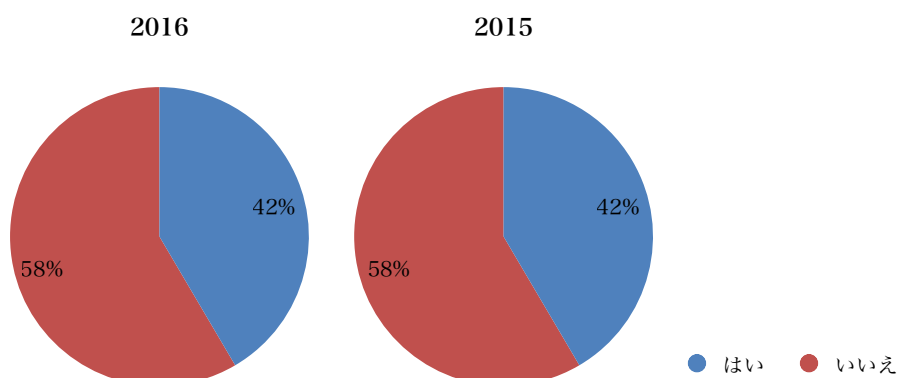
3. 「ベップ・アート・マンス」のことをいつから知っていたか

知っている来場者は「2010年」と回答している比率が高いがその他の項目は昨年と比べて10%ほど減少している。また、「知らない」と回答した来場者が29%と一番高い割合であり、「ベップ・アート・マンス」の開催を知らず来訪した来場者が多かったのではないかと考えられる。



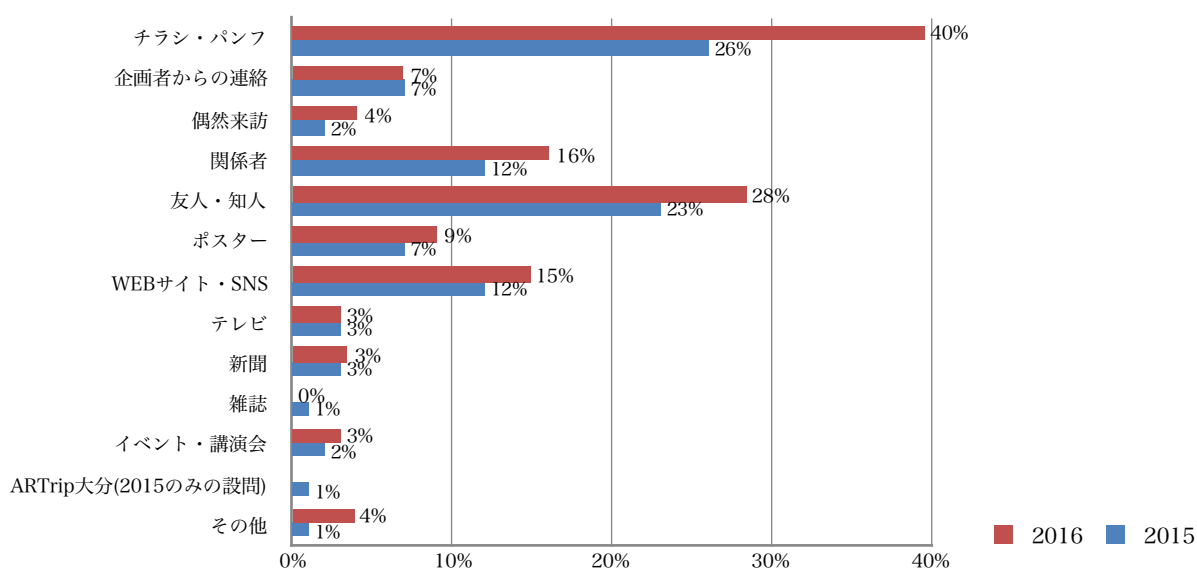
4. 「ベップ・アート・マンス」にこれまで参加したことがあるか

昨年と比較して全く同じ値となり、大きな変化は見られなかった。



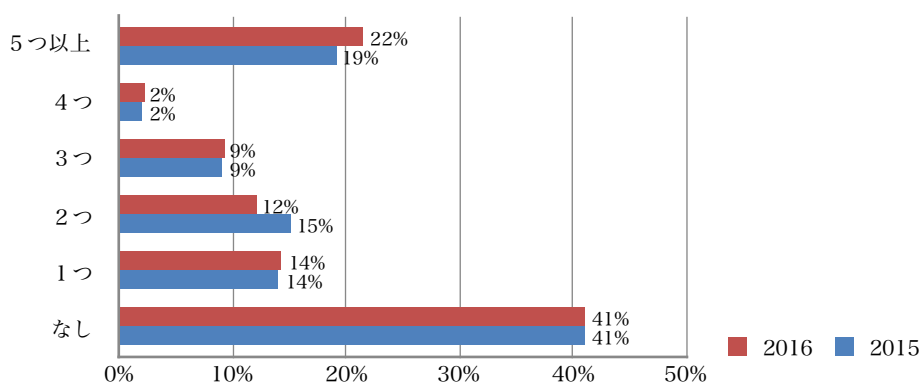
5. 「ベップ・アート・マンス」のことを何で知ったか(複数回答可)

昨年と同様、「チラシ・パンフ」の割合が一番高かった。また、「友人・知人」を選択した来場者が若干増加している。



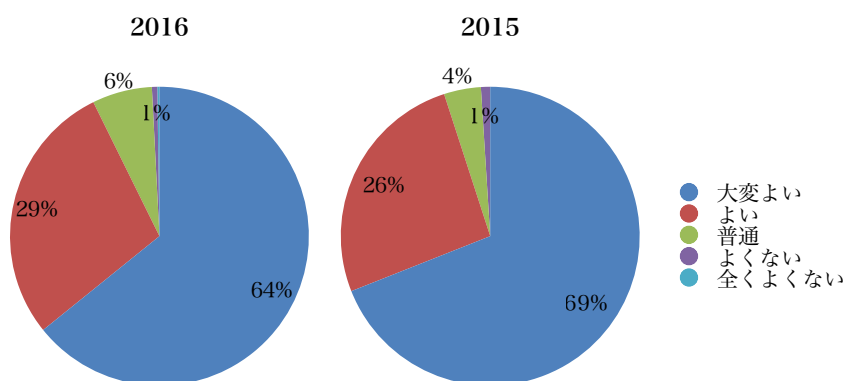
6. 他に参加した、または参加する予定のプログラムはあるか

昨年と比較して大きな変化は見られないが、「5つ以上」と選択した来場者が若干数増加している。



7. 「ベップ・アート・マンス」という取り組みへの評価

「大変よい」「よい」と選択した来場者がほとんどであり、「ベップ・アート・マンス」は高い評価を受け、今後の期待もされている。

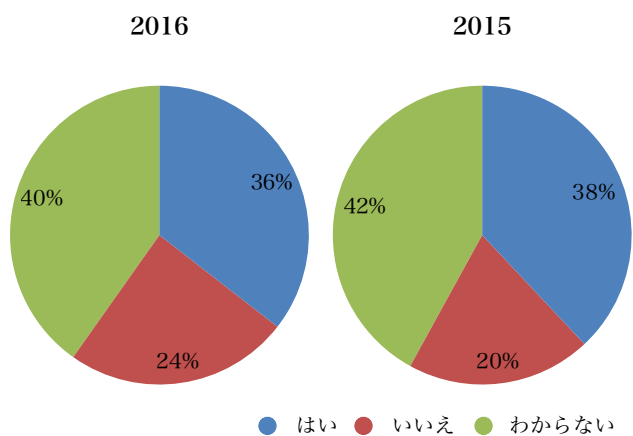


8. 7の理由

- ・別府の深いところをどんどん発信していくのは大変素晴らしいと思う。
- ・場所から場所へ移動するときに町中を歩いていろいろな発見があるから。
- ・町の活性化の一環となる運動で、注目しています。
- ・気軽に参加できてよい。
- ・パンフレットが見やすいともっと参加しやすいです。
- ・市民文化祭としての立ち位置はキープしつつ、クオリティも高くできるといいですね。
- ・「別府に行ってみたい」を増やしてくれるから。
- ・当たり前恒例化しているのはすごいが、だからこそテコ入れがいるかも。
- ・地域の活性化や企業を知ることができる。
- ・アートを一般の人でも身近に感じることができるから。

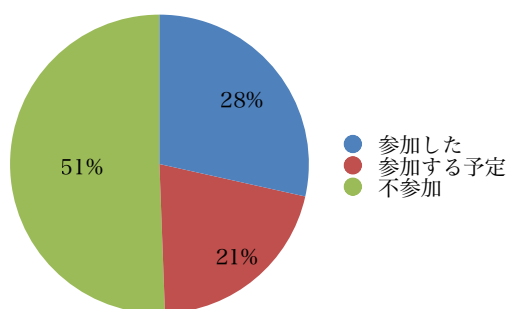
9. 次回はプログラムの企画者として参加したいと思うか

昨年と比較して大きな変化は見られない。



10. 「目 In Beppu」には参加したか

50%以上の来場者が「不参加」と選択している。今後、「ベップ・アート・マンス」と、来年度以降も引き続き同時期開催予定の「in BEPPU」を相互に行き交うようにすることが課題である。



「ベップ・アート・マンス(以下、BAM)2016」と「目 In Beppu」を合わせた全体的な事業評価は後述することとして、ここではまず、今回で7回目の開催となるBAMを対象とした評価を行う。

プロジェクトの事業構造を毎回見直してきた別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界(以下、混浴)」 「in BEPPU」と異なり、BAMは2010年の開始当初から、基本的な構造は変化していない。このため、長期時系列で開催実績を比較分析することがなじむプロジェクトといえよう。

まず確認しておきたいのは、BAMが、小規模文化団体の育成・支援を目的に、実行委員会事務局が企画立案から実現に向けたサポートを行うことで、市民の主体的な参画を促し、別府市における芸術文化の振興と活力あふれる地域の実現を目指すプロジェクトということである。すなわち、市民がアートの鑑賞者にとどまらず文化芸術活動の表現者・担い手の一員として参画することを通じて、自らの創造性を発揮・拡張させることが目的なのだ。すなわち、BAMの事業評価に際しては、市民を中心とするプログラム企画者の参画や変化が、来場者のそれ以上に重視される。

「ベップ・アート・マンス(BAM)」開催実績		2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
年		2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
会 期	開幕日	11/1	11/1	10/6	11/1	11/1	7/18	10/29
	閉幕日	11/30	11/30	12/2	12/1	11/30	9/27	11/30
	開催日数(日)	30	30	58	31	30	72	33
BAMのクオリティ	プログラム企画者の満足度(%)	100	100	99	95	97	99	98
	来場者の満足度(%)	-	97	94	96	98	95	96
プログラム企画者	参加団体数	27	57	122	75	73	71	87
	参加プログラム数	43	87	148	86	81	88	97
	1日あたり参加プログラム数	1.4	2.9	2.6	2.8	2.7	1.2	2.9
	次回BAMへの登録意向あり(%)	84	98	81	98	99	95	92
	過去にBAMに登録した経験あり(%)	-	17	33	55	59	62	54
	事務局の対応への満足度(%)	75	80	82	86	91	93	95
	「BAMをつくろう会」に参加(%)	-	-	-	42	39	46	27
BAM来場者	来場者数(名)	3,930	11,751	53,736	25,147	22,134	53,474	13,225
	次回BAMに企画者側で参加の意向あり(%)	-	48	23	36	29	38	36

※1 満足度は「大変よい」+「よい」とした回答の構成比

※2 2016年の来場数には「目 In Beppu」も含む

※3 2016年の構成比は、過去の集計結果との整合性を保つため、未回答者を分母から除いて算出

(1) 「ベップ・アート・マンス」のクオリティ

BAMの取り組みを評価する意見は、プログラム企画者・来場者の双方で、2010年の開始以来、90%台後半をほぼキープしており、BAMへの満足度は高いものとなっている。

(2) プログラム企画者の視点

BAMに参加する団体・プログラムの数は、混浴との同時開催となった2012年を除けば、おおむね増加傾向にある。混浴&BAM併催年(2012年、2015年)は、通常1ヶ月のBAM会期を2ヶ月に延ばしており、1日あたりのプログラム数でみれば、BAM2016は過去最高となった。また、当初は事務局から積極的に声かけをしてプログラム企画者を集めていたのに対して、近年は参加者サイドの方から手が挙がるのが一般的となった。BAMが地域社会に定着しつつあるといえよう。

プログラム企画者のうち、次回もBAMに登録したいと答えた団体は、8～9割を占めている。一方、過去にBAMに登録した経験を持つ団体は、BAM2013以降、5～6割の水準で推移しており、企画者の半数強がBAMリピーター層である。BAM終了時には多くの団体が次回も参加したいと考えるが、このうち実際に継続参加にこぎつけるのが半分強であるという姿が浮かび上がる。しかし、この事実は決して悪いことではない。

BAMに参加しなくなった団体の中にも、BAM会期に限らず自主的に活動を続けている団体がある。また、継続参加が5割強ということは、毎年新たに5割弱の企画者が登場していることを示している。BAMの新陳代謝を図るうえで、企画者の半分以上が経験者、半分以上が新規参入者という構成は、BAMのサステナビリティ(持続可能性)を高めるうえで肯定的に捉えるべきではないか。

企画者サイドの事務局対応に対する評価は、2010年の75%から2016年の95%まで一本調子で向上している。BAMの継続開催にともない、安定的運営のノウハウが事務局に蓄積されてきたことが窺える。2013年からは、市民による主体的な運営を目指し、プログラム企画者を中心にボランティア・地域の方々なども集まった意見交換、企画者同士の交流

の場として「ベップ・アート・マンスをつくろう会(BAMをつくろう会)」もスタートした。この活動を通じて、事務局と企画者が対話する頻度が増え、よりきめ細やかなサポートが可能になるとともに、企画者同士が長期的・継続的に交流を持つことで、BAM会期以外にも文化芸術活動に関して情報交換を行う姿がみられるようになった。こうした活動も、事務局対応への満足度向上の一因になったと推察される。

BAMをつくろう会に参加した企画者の割合は、2013年から4割程度で推移してきたが、2016年は27%にとどまった。BAMにて習熟したがゆえに参加が不要になった団体もあろうが、毎回、BAM企画者の半分弱は初参加であること、BAMをつくろう会には企画者間の交流を促す役割もあることを踏まえると、この数字がこれ以上落ち込むのは望ましくないと考える。

(3) 来場者の視点

すでに述べたとおり、BAM最大の目的は文化芸術活動の表現者・担い手としての市民参加を進めることにあり、来場者という受け手の人数を過度に評価することは控えたい。もちろん、多くの来場者を迎えることは、プログラム企画者にとって大きな励みとなるものであり、そうした観点から評価すべき指標である。

BAM2016の来場者数は13,225名となり、例年に比べて減少した。しかし、過去のBAMには、1プログラムで数千～数万人が参加するものが毎年2、3件あったのである。図書館・美術館のように、もともと一定の集客力があるため、会場に行けば自動的に来場者としてカウントされるタイプの事業である。一方、BAM登録プログラムの大半を占めるのは、来場者数が一桁または二桁の中小規模の事業である。その分、例えば数時間におよぶ作品づくりワークショップなど、濃密な文化体験を味わえる企画も多い。このように体験の質が全く異なるプログラムの来場者数を単純に合算して経年比較することには、あまり意味がない。前者のような例外的プログラムを除けば、BAM来場者の“基礎票”は1万人強であると推測され、こうした相場観をベースに今後の集客を考えていくべきであろう。

なお、プログラムによって性格が異なることを踏まえれば、比較に意味があるのは、総来場者数の経年比較よりも、企画者が事前に設定した来場者数の目標をどの程度達成したかという目標・実績対比であろう。BAM2016の97プログラムのうち、事前に目標を設定した89プログラムの達成率の平均値は、加重平均で91%、単純平均で100%となった。各プログラムの来場者数の大小を問うことなく、企画者サイドの平均的な目標達成度を把握するうえでは、後者の指標がふさわしいといえよう。達成率の単純平均が100%という結果は、平均してみれば、プログラム企画者がおおむね目標どおりの集客を獲得できたことを示している。

「ベップ・アート・マンス(BAM)2016」における各プログラムの来場者達成率

達成率	プログラム数	平均達成率(加重平均)	平均達成率(単純平均)
200%以上	7	91%	100%
150～200%	9		
100～150%	28		
50～100%	29		
0～50%	16		
小 計	89		
目標設定なし	8		

※ 加重平均：各プログラムの達成率を来場者数で重みづけして平均値を算出

＝総来場者数11,947名(目標を設定した89プログラムの来場者合計)／総目標来場者数13,158名

単純平均：各プログラムの達成率を単純に足して平均値を算出

＝達成度合計8,858%(目標を設定した89プログラムの達成率合計)／目標設定プログラム89

そして、別府の地域課題の創造的解決への貢献という最終目的に照らせば、会期中の来場者数はあくまで短期の指標に過ぎず、中長期的には、別府における創造的人材の育成・誘致や、会期中にとどまらない別府全体の交流人口の多様化こそが重要な成果といえる。こうした目標を評価するうえで、BAMの来場者アンケートに2011年から「次回はプログラムの企画者として参加したいと思うか」という質問項目を設けている。この問いに「はい」と答えた来場者は、2011年には48%にのぼった。こうしたポテンシャルが、混浴と同時開催されたBAM2012における参加団体数の増加の一因と考えられる。参加団体が一挙に増えた結果、2012年時点の回答はさすがに23%と減少に転じたが、そのまま減少を続けることはなく、2013年以降3～4割という水準をキープしている。すでに述べたように、毎年のBAM参加団体の半数弱が新規参入者だが、その大きな源泉が、こうした潜在的プログラム企画者の存在だといえよう。

(4) 結 論

以上のように、2010年以来7回開催されたBAMは徐々に地域に定着しつつある。今後については、BAMをつくろう会などの場を十分活用して、プログラム企画者間の交流をより活発化させていくべきだろう。

また、プログラム企画者としては、昔からの別府市民ばかりでなく、混浴などを契機に別府の魅力を知った移住者も重要な存在である。こうした面からは、「in BEPPU」のような集客力のある目玉プロジェクトとの同時期開催を通じて、新たな別府ファンを広域で獲得し、将来的に定住へとつなげていくことも求められる。

BAMが今後、別府市・大分県に、創造的人材を惹き付け、その交流を促す「社会関係資本(Social Capital)」へと成長を遂げていくことが重要である。

3章 開催記録2 「目 In Beppu」

3-1. 企画概要

1. はじめに

「in BEPPU」は、2009年から計3回開催し、2015年に完結した、別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」の後継企画として、2016年より始動した個展形式の芸術祭である。

「混浴温泉世界」は、多くのアーティストが参加することができた反面、作品一つずつにそれほど大きな予算をかけることが難しいという課題を抱えていた。それぞれの作品より、企画内容に評価が集まりやすかったのもそれ故だと考える。また、この3回で見出した3つの方向性、“身体性を重視すること”、“量よりも体験の質を重視すること”、“地域性を活かすこと”を踏襲し、これまで以上に別府にフォーカスする、エッジの効いたプロジェクトを計画するべきと考えた。

そこで、グループ展から個展に切り替え、国際的に活躍する1組のアーティストによる、地域性を活かしたアートプロジェクトを実施することにした。タイトルは、別府を前面に出しシンプルに「in BEPPU」とし、これを毎年実施する。第1回目となる今回は、現在、最も注目される若手アーティスト集団【目】を招聘し、展覧会名を「目 In Beppu」と冠したオリジナルプロジェクトを「ベップ・アート・マンス 2016」の期間中に実施した。

2. アーティストについて



現代芸術活動チーム【目】

個々のクリエイティビティを特性化し、連携を重視するチーム型芸術活動。中心メンバーは、アーティストの荒神明香(1983年生まれ)、ディレクターの南川憲二(1979年生まれ)、制作統括の増井宏文(1980年生まれ)の3名。果てしなく不確かな現実世界が実感に引き寄せられる体験を作品として展開している。

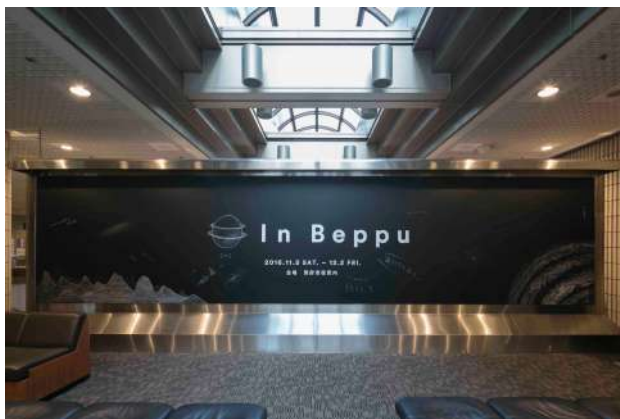
3. ロゴマークについて



UMA/design farm(代表・原田祐馬)によりデザインされた「目 In Beppu」公式ロゴ。別府の土地で採取された石をモチーフに「目 In Beppu」の世界観を表現した。

3-2. 作品について

作品名	奥行き近く
鑑賞形式	予約制ツアー方式(30～40分程度)
会場	別府市役所内(別府市上野口町1-15)
参加者	15～20名／回
実施日	2016年11月5日(土)～12月2日(金) (28日間) [計100回実施]※増便含む (1) 毎週月～金曜日＝10:00～10:40／14:00～14:40／16:00～16:40 (2) 毎週土・日曜日および祝日＝10:00～10:40／11:00～11:40／13:00～13:40／14:00～14:40／15:00～15:40／16:00～16:40 (3) 下記日程は変則運行及び休み 11月7日(月)＝14:00～14:40／16:00～16:40(2回のみ開催) 11月12日(土)＝15:30～16:10(1回のみ開催) 11月13日(日)＝終日休み
参加者人数	1,122名
内容	通常公務が行なわれている別府市役所の中を巡っていくツアー形式の作品。【目】は、この市役所の窓の外に、白く霧がかった世界を作り出し、庁舎内にも様々な仕掛けを施した。その不思議な風景と、公務が行なわれている市役所内空間との対比によって、鑑賞者の足元に続く日常を異質なものに变貌させる。鑑賞者は、何気なく置いている物体や市役所にいる全ての人に対し違和感を抱き始め、さらにはツアーが終わった後も作品が続いているかのような錯覚を覚える、非日常的な体験ツアーとなった。
作品の様子	



1 階エントランス



1 階エントランス看板(部分)



グランドフロアの様子(開庁日)



グランドフロアの様子(閉庁日)

作品の様子



市長応接室の様子



市長応接室の様子



市長応接室のオブジェ



市長応接室に設置されたオブジェ(一部)



グランドフロア ツアーの様子(閉庁日)



1階ツアー受付ブース



受付ブース近くに設置されたオブジェ(一部)



別府市役所庁舎を中庭から見た様子

3-3. 関連イベント

イベント名	「目 In Beppu」アーティストトーク
実施場所	別府ブルーバード会館3階 フレックスホール (別府市北浜1-2-12)
参加費	無料
実施日	2016年11月11日(金) [第1部]17:00~17:50(開場16:30) [第2部]18:00~19:30
参加者人数	70名
内容	
[第1部] 総合プロデューサーの山出淳也より、全国で行われている様々な芸術祭のレポートを発表し「in BEPPU」の取り組みや、その特徴を紹介した。 [第2部] 前半は【目】によるこれまでの活動について紹介し、後半は【目】の作品制作に携わった経験をもつ、山口祥平氏(大分県立芸術文化短期大学 講師)をモデレーターに迎え、彼らの活動内容や別府での作品について話を展開した。	
	

イベント名	Tokyo Art Research Lab (TARL) 集中講座「アートプロジェクトが向かう、これからの在り方」 第1回 なぜ個展形式の芸術祭が生まれたのか〜「目 In Beppu」から紐解く、これからの芸術祭の在り方〜
主催	Tokyo Art Research Lab
実施場所	アーツカウンシル東京 ROOM302 (東京都千代田区外神田6-11-14 [3331 Arts Chiyoda 3F])
参加費	無料
実施日	2017年1月29日(日) 15:00~18:00 (開場14:30)
参加者人数	70名
内容	
TARL主催の講座形式のイベント。アーツカウンシル東京ディレクターの森司氏をモデレーターに、「in BEPPU」の取り組みやその特徴を通して、これからの芸術祭の在り方を考えた。 前半は、総合プロデューサーの山出淳也より、「in BEPPU」の取り組みや特徴を紹介。その後、【目】による「目 In Beppu」の作品についての紹介を行った。後半は、三者を交えてのクロストークを行い、これからの芸術祭の在り方について議論した。	
	

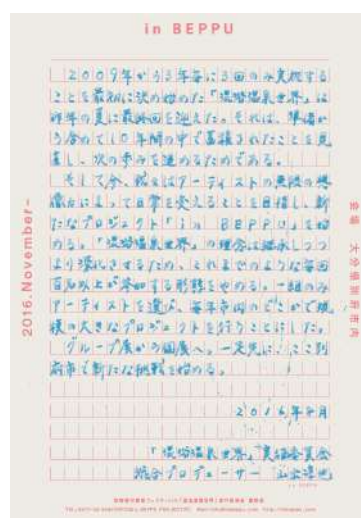
3-4. 運営について

予約運営	公式WEBサイト内に予約ページを開設し、希望者が自由に参加予約できるようにした。
広報物作成	・WEBサイト ・「in BEPPU」宣言文チラシ(A4サイズ) ・ポスター(B1サイズ×3種) ・見開きパンフレット(A4サイズ折り)
ボランティアの状況	本実行委員会では、ボランティアスタッフを2012年より温泉の管理をする番台さんになぞらい「ぼんだいさん」と呼んでいる。ボランティアは延べ302名が参加し、うち新規登録者は14名となった。活動内容は、作品制作補助、広報活動、展覧会受付業務、作品監視業務、展覧会案内(「目 In Beppu」作品鑑賞ツアー案内)、事務作業と多岐に渡った。

広報物



<WEBサイト>



<「in BEPPU」宣言文チラシ(A4サイズ)>



<見開きパンフレット(A4サイズ折り)>



<ポスター(B1サイズ×3種)>

3-5. 来場者について

1. 来場者数

会期中の総来場者は、1,122名(当初見込み：1,500名)を数えた。

※来場者数はツアー参加者のみ計上しており、作品の一部を偶然見た人や、別府市役所職員は除いている。

2. アンケート結果

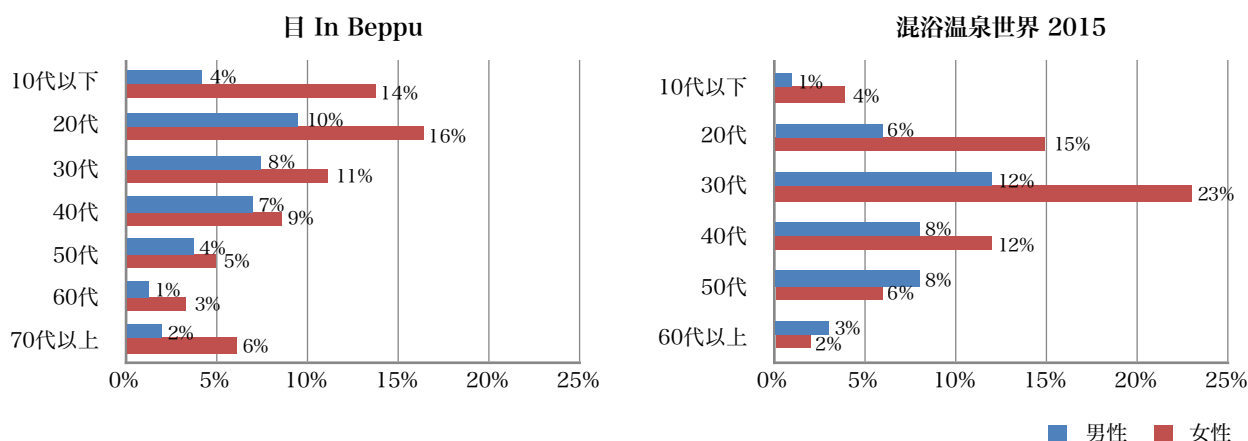
会期中、来場者へアンケートを実施した。回収枚数は1,122枚。比較のため昨年開催された「混浴温泉世界 2015」の回答も掲載する(「目 In Beppu」のアンケートとの比較項目がない回答は掲載しない)。

※小数点以下の記載のないものに関しては四捨五入している。

1. 年齢、性別、居住地、滞在期間
2. 「目 In Beppu」の評価
3. 2の理由
4. 感想や気付いた点
5. どこで知ったか
6. 「混浴温泉世界」には参加したか(複数回答可)
7. 「ベップ・アート・マンス」をいつから知っていたか
8. 「ベップ・アート・マンス」に以前も参加したことがあるか
9. 「ベップ・アート・マンス」をどこで知ったか(複数回答可)
10. 他に参加した、または参加する予定のプログラムはあるか
11. 「ベップ・アート・マンス」という取り組みへの評価
12. 次回はプログラムの企画者として参加したいと思うか

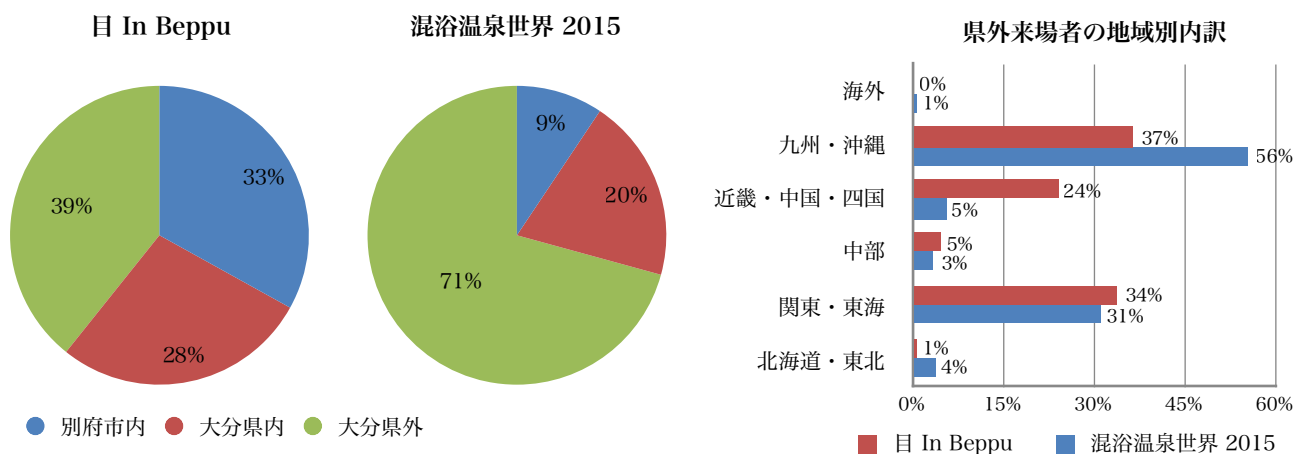
1-1. 年齢、性別

「混浴温泉世界 2015」と比べ、60代と70代以上の女性参加率が9%と4倍以上増加している一方、30代の参加者が減少している。



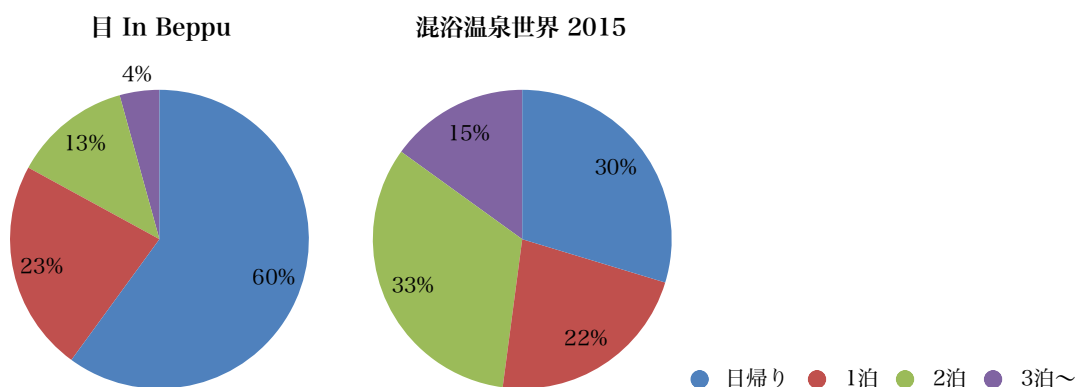
1-2. 居住地

昨年と比べ、県外客が3割減少し、別府市内からの来場者が24%増加している。居住地の地域別内訳を見ると、「九州・沖縄」が2割減少し、「近畿・中国」が2割増加している。



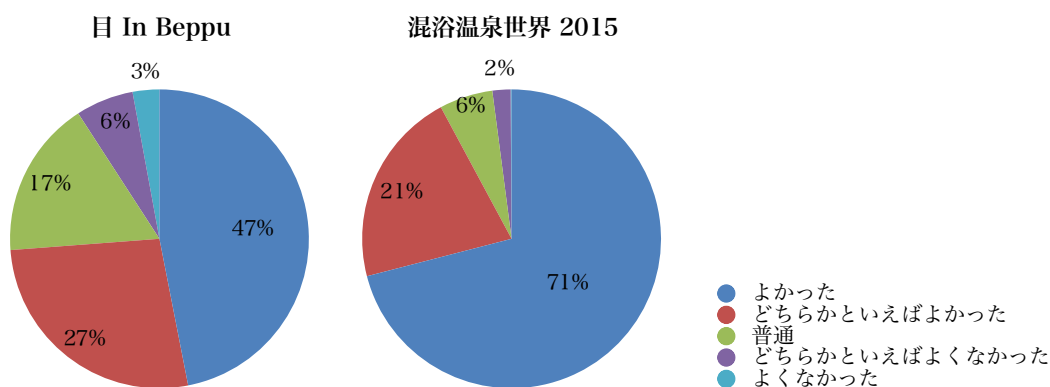
1-3. 滞在期間

昨年と比べ、日帰りの来場者が2倍増加の結果となった。前項目の、別府市内と大分県内からの来場者の多さに起因すると考えられる。



2. 「目 In Beppu」の評価

「混浴温泉世界 2015」の「よかった」「どちらかといえばよかった」の合計が92%に対し、「目 In Beppu」は74%と、18%下がっている。



3. 2の理由

- ・日常と非日常を行き来するような不思議な体験ができたから。市役所やその他の公共の「場」の意味を考え直すきっかけともなりました。
- ・市役所全体、どこからどこまでも【目】の作品に見えて、ドキドキしっぱなしで、すばらしかった!!
- ・アトラクティブなアートプログラムが多いなか、上質で挑戦的な内容で興味深く思いました。私も企画者の立場から参考にさせていただきます。
- ・市役所の中を歩きながらのツアー形式が面白かった。私には難しかったけれども、今からスタッフの方に質問してこのモヤとした気持ちをすっきりさせたい。
- ・宇宙と市役所が湯煙でつながるという組み合わせが良かった。
- ・難しい作品でした。説明があったほうが良かった。
- ・不思議な現象だが評価はむづかしい!
- ・すぐにはなんとも言い難いですね。じわじわと考えてみたいと思います。
- ・もう少しボリュームがほしい。
- ・情報が少なすぎてまだよくわかりません。
- ・もう少しインパクトのあるものを期待していた。

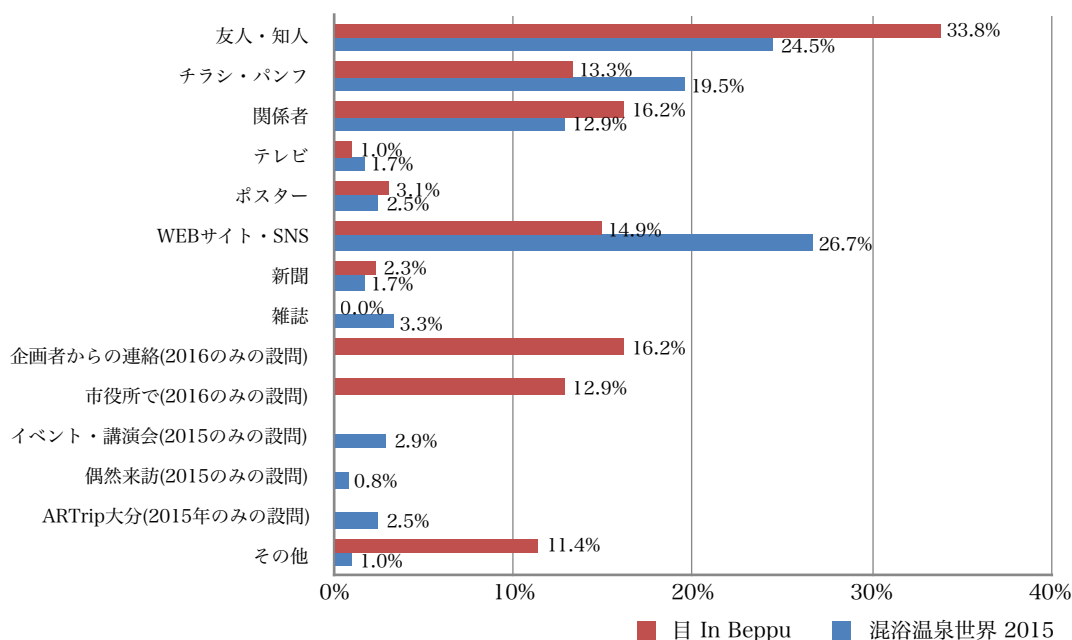
4. 感想や気付いた点

- ・市役所の公務をしている職員さんや市民の方々の雰囲気が外の異質さとリンクしていたと思います。
- ・普段は入れない部屋に入れたドキドキ感と不思議な空間が面白かったです。
- ・まるで4Dの映画を観ているようで、現実でありながら目を通して見るものと五感全体から受け取る情報が切り離されて入ってきた。すごい。また来たい。
- ・自分で考えて自分で見て自分で判断する、面白いイベントですね。体験できてうれしいです。
- ・アートに親しくない人を見ると「作品(というもの)がなかった!」と怒りそう。ものの価値や見えることが揺らぐ展示だったと思う。
- ・作品についての説明が全くないのが逆に良かった。
- ・もう少し別府市民が参加できるように大きく宣伝してほしい。何をしているのかいまちよくわからない。
- ・ただ館内を歩くだけの企画に見えてしまう。
- ・アートにあまり気付かず、残念だった。少し教えてもらえたら、もっと良かったと思います。

肯定的な感想の一方、「難しかった」や「わからない」など、否定的な感想も多く、これは、作品自体の評価というよりも、事務局による本展覧会の広報不足や、作品自体の魅力を伝えきれなかったことが原因だと考えられる。

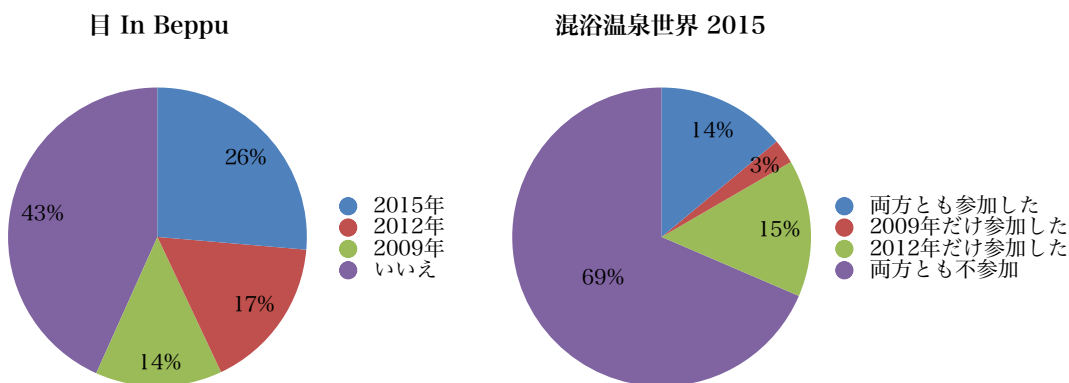
5. どこで知ったか(「目 In Beppu」のみ複数回答のため、回答者数で比率を算出)

「混浴温泉世界 2015」は「WEBサイト・SNS」が最も高いのに対し、「目 In Beppu」は「友人・知人」が多い。



6. 「混浴温泉世界」には参加したか(複数回答可) ※回答者数で比率を算出

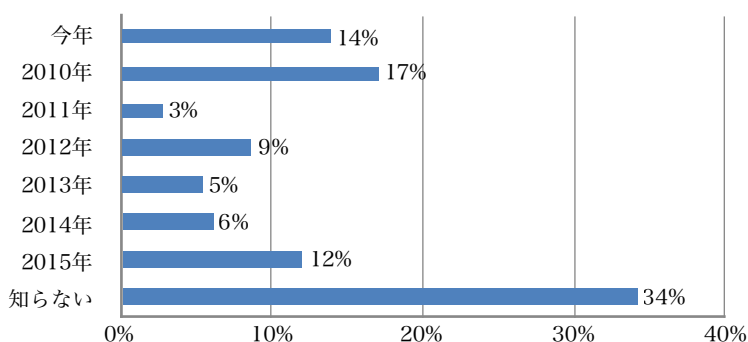
「混浴温泉世界 2015」の「両方とも不参加」の合計が69%に対し、「目 In Beppu」は43%と、26%下がっており、「混浴温泉世界」のリピーターが半数を超えている。



以下、「目 In Beppu」の来場者に向けた「ベップ・アート・マンス」について調査した内容となる。

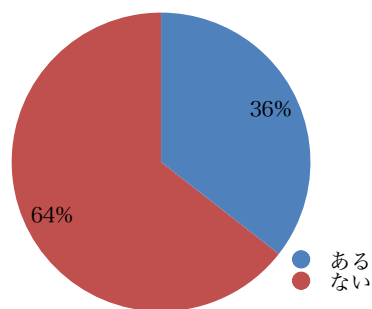
7. 「ベップ・アート・マンス」をいつから知っていたか

「知らない」と回答した来場者が多数であるが、知っていたなかでは「2010年」からと回答した来場者が最も高い。



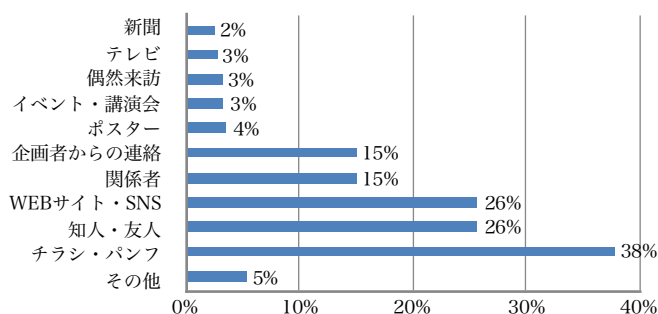
8. 「ベップ・アート・マンス」に以前も参加したことがあるか

64%の来場者は「ベップ・アート・マンス」に参加したことがないと回答した。

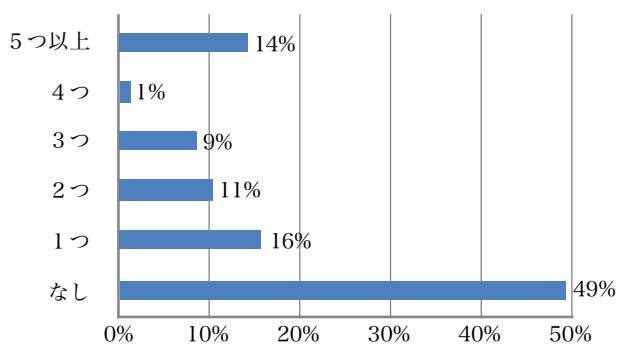


9. 「ベップ・アート・マンス」をどこで知ったか(複数回答可)

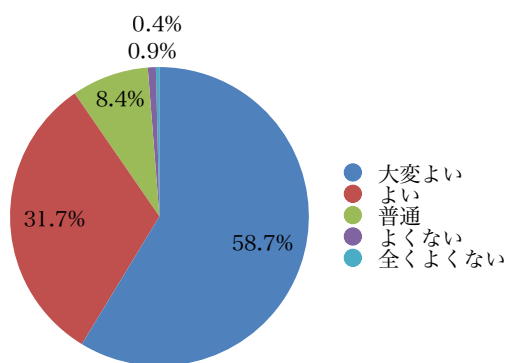
設問5では「目 In Beppu」を知ったきっかけを「友人・知人」とした来場者が最も高かったが、「ベップ・アート・マンス」を「チラシ・パンフ」で知った来場者が30%を超えて一番高い比率となった。



10. 他に参加した、または参加する予定のプログラムはあるか
「なし」と回答した来場者が5割を占めていた。

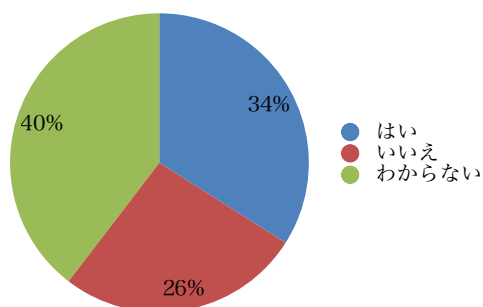


11. 「ベップ・アート・マンス」という取り組みへの評価
回答者の90%がベップ・アート・マンスを高く評価している。



12. 次回はプログラムの企画者として参加したいと思うか

「わからない」と回答した来場者が40%と一番高く、「はい」と答えた来場者は「いいえ」より8%上回った。



4-1. 情報発信事業

地域の魅力を伝えるための「旅手帖beppu WEB」、外国人向けコンテンツの「豆知識beppu」の記事の拡充等を行った。

1. 「旅手帖beppu WEB」

機能と特徴

- ①店舗や商品の情報を町や人のものがたりと共に伝えることで、より多角的で温かみのある別府の魅力を発信する(2017年3月30日現在、86コンテンツ)。
- ②広告掲載はせず、事務局スタッフが実際に歩いて見て体験した上で、おすすめのものだけを紹介している。
- ③「♥favorite」機能を使えば、お気に入りのコンテンツを集めて保存できる。別府旅行時の訪問リスト作成としても活用できる。
- ④「みんなの旅手帖」は、ユーザーが「旅手帖beppu」のコンテンツを組み合わせ、自分だけの「旅手帖beppu」を作り、共有することで、他の読者も様々な視点の「旅手帖beppu」を楽しむことができる。
- ⑤「特集記事」は、事務局スタッフが、季節やイベントに合わせた別府の町の楽しみ方を発信するページ。

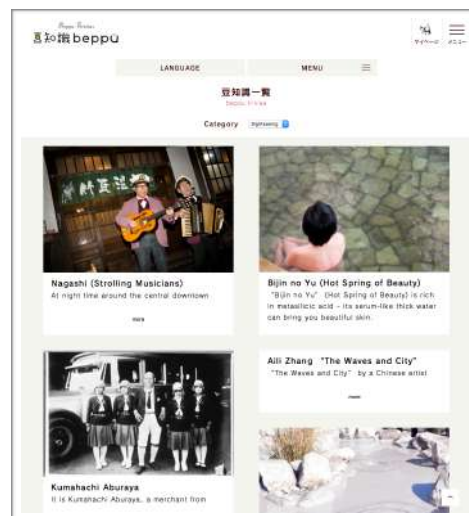


<「旅手帖beppu」WEBサイト>

2. 「豆知識beppu」

機能と特徴

- ①8ヶ国語対応(日本語、英語、韓国語、中国語、タイ語、インドネシア語、ベトナム語、フィリピン語)でインバウンド客に広く対応する。
- ②「別府とは」は、別府の特徴や歴史、アクセス方法まで記載したページ。別府の基本情報から旅行計画まで一気に知ることができる。
- ③「豆知識一覧」は、別府のトリビアが100件ほど掲載しているページ。おすすめのグルメやお土産、温泉の入り方も紹介している。
- ④「教えて豆知識」は、多言語でQ&Aを受け付けるページ。質問に各言語の翻訳者が丁寧に答える。



<「豆知識beppu」WEBサイト>

4-2. 定住促進事業

1. クリエイターへの意識調査

■調査の目的

別府市が掲げる総合計画の「アートが溢れるまちづくり」の実現を目指し、アーティストを生み、育てていく環境整備の一環としてクリエイターへ移住・定住に関するアンケートを実施。

■調査概要

調査期間：2017年2月13日(月)～2017年3月20日(月)

調査対象：全国のアーティスト・クリエイター

調査方法：WEBを使用したインターネット調査

回収数：208件 有効回答数：206件 有効回収率：99%

■アンケート結果からみえてきた主な特徴

<希望する居住環境>

住居形態では「戸建て住宅」を選択した回答者が90名(45%)と多く、居住地と制作・活動拠点を兼ねて広さと部屋数を重視していることがわかる。また、居住環境で重視する条件は「周辺水準より賃料が安い」が55名(47%)であり、最も高い割合となった。

<希望する入居後の条件>

「自己負担である程度の修繕(壁紙の張替え等)を行うことができる」が93名(47%)、「自己負担で好みの修繕等を行うことができる」が84名(42%)となり、アーティストやクリエイターは自由度が高く修繕が可能な物件を求める傾向にあることがうかがえる。

2. まちづくりプロジェクト視察結果

移住・定住促進の事例として、千葉県松戸市で展開する新しいまちづくりプロジェクト『MAD City』の視察を行った。株式会社 まちづくりエィティブが運営する『MAD City』はアーティストやクリエイター向けの物件を紹介する不動産サービスを中心に、イベント運営やビジネスサポートなど様々な事業を行っている。従来の仲介形式ではなく、オーナーから物件を借り受けて貸し出す「サブリース」形式をとり、「原状回復が不要なオリジナル物件」が特徴である。立ち上げから7年で、移住者が述べ220人を超え、物件の紹介数は80件にもおよぶ。さらに、移住したクリエイターと商店や企業とのコラボレーション事例も生まれている。創造的でありながら経済が循環する自治都市を目指す『MAD City』や株式会社 まちづくりエィティブの活動は、各地の抱える課題に新たな視点をもたらす、創造的なまちづくりのモデルケースであると感じた。

本調査の結果を踏まえ、別府市内の空き家物件所有者へ活用意向調査・分析を行い、次年度報告する。



<『MAD City』の中心にある『MAD City Gallery』
企画展、マップやフリーペーパーの配布などを行う>

第5章 共通の取り組み

5-1. 広報活動と開催効果

1. メディア掲載実績ならびに広告換算

2016年4月1日以降、新聞・テレビ・ラジオ・WEBなどのメディアで、合計111回の掲載・放送があった。その結果を広告換算すると84,707,313円となった。

「混浴温泉世界 2015」は359,215,558円であり、今年の広告換算は2015年と比べると、274,508,245円下回った。

メディア媒体件数(2016年4月～11月)

(ベップ・アート・マンス 2016および目 In Beppu／混浴温泉世界 2015)※1

	全国(回)	地方(回) ※3	媒体合計(回)
新聞	0/5	67/106	67/111
テレビ	0/3	6/12	6/15
ラジオ	0/3	3/2	3/5
雑誌	5/38	6/8	11/46
WEB	24/368※2	—	24/368
エリア合計	29/417	82/128	111/545

※1. 掲載・放送媒体件数は、「混浴温泉世界 2015」と「ベップ・アート・マンス 2015」を合算した数字。

※2. 今年度のWEB掲載件数は、オリジナル記事のみ集計し、記事を転載したWEBサイトは除外している。

※3. 県内で取り上げられたニュースなども含める。また、掲載・放送実績が確認できているもののみ集計。

広告換算内訳

メディア	掲載・放送(回)	換算金額(円)
新聞	67	70,533,132
テレビ・ラジオ	9	9,605,520
雑誌	11	2,566,365
WEB	24	2,002,296
合計	111	84,707,313

(集計：株式会社 ジャパン通信社)

主な掲載・放送先実績(順不同)

新聞	朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、西日本新聞、大分合同新聞、今日新聞
テレビ	NHK 大分、TOS テレビ大分、CTB メディア、大分ケーブルテレコム
ラジオ	OBSラジオ、ゆふいんラヂオ、スターコーンFM
雑誌	月刊ギャラリー、OZ magazine、美術手帖、市報べっふ、月刊シティ情報おおいた、BARATTE、パームス
WEB	CINRA.NET、資生堂 花椿、bitecho、pen online、クリエイティブを刺激するデザイン情報サイト [JDN]、HOUYHNHNM(フィナム)、大分県、projectart.jp、SCAI THE BATHHOUSE、大分合同新聞、VIEWS、PandA、EventerBee、成安造形大学 美術領域、わくわくとんぼビデオ、温泉ハイスタンダード 極楽地獄 別府、ツーリズムおおいた、富士屋Gallery一也百、別府明礬温泉 えびすの湯、大平 由香理、書家かわくぼみちこ

※新聞・雑誌は出版社名ではなく、新聞・雑誌名で記載

2. 情報発信について

今回の事業での主な情報発信媒体は以下の通り。

媒体	役割	発行部数、アクセス数など
公式WEBサイト	当事業全般の情報を発信する公式WEBサイト。	《ベップ・アート・マンス 2016》期間：4月1日～12月2日 ・ユーザー数：110,999、ページビュー数：2,164,676 ・アクセス元の国：48カ国 ※参考元：さくらインターネット アクセス解析 《目 In Beppu》期間：7月1日～12月2日(7月1日に開設) ・ユーザー数：6,687、ページビュー数：12,664 ・アクセス元の国：10カ国 ※参考元：グーグルアナリティクス解析
Facebook	イベント情報や、来場者などとのコミュニケーション、公式情報以外の町の状況や作品の制作状況などを発信。	《ベップ・アート・マンス》期間：4月1日～12月2日 ・「いいね」数：753 ・4月1日以降の新規「いいね」数：119件 ・アクセス元の国／地域：19カ国 《目 In Beppu》期間：10月12日～12月2日(10月12日に開設) ・「いいね」数：530 ・アクセス元の国／地域：9カ国
Twitter	イベントの最新情報を発信。	《ベップ・アート・マンス》期間：4月1日～12月2日 ・ツイート数：238、フォロワー数：873 ・4月1日以降の新規フォロワー数：59 《目 In Beppu》期間：4月1日～12月2日 ・ツイート数：181、フォロワー数：2,498 ・4月1日以降の新規フォロワー数：64

5-2. 観光消費額

1. 観光消費額

別府市ONSENツーリズム部観光まちづくり課が作成した「別府市 平成27年観光動態要覧」に掲載されている1人あたりの消費額（宿泊客：26,169円、日帰り客：5,436円）を基に算出すると、2016年は56,326,863円、2015年は470,359,329円※となった。

1泊2日	宿泊費7,000円+交通費2,000円+飲食費5,000円+お土産代3,000円=17,000円
2泊3日	宿泊費14,000円+交通費2,000円+飲食費10,000円+お土産代3,000円=29,000円
3泊4日	宿泊費21,000円+交通費2,000円+飲食費15,000円+お土産代3,000円=41,000円
日帰り	交通費500円+飲食代2,000円+お土産代2,000円=4,500円

※2015年の消費額は「別府市 平成26年観光動態要覧」〈宿泊客：27,163円、日帰り客：5,815円〉を元に集計。

2. 地域内消費額

来場者の地域内での実質的な消費額を見るために、事務局独自の算出方法を下記の様に設定した。

上記の設定を元に算出した「目 In Beppu」ならびに「ベップ・アート・マンス 2016」の地域内消費額は、78,503,000円となった。

		客数(人)		1人当たりの消費額(円)	消費額(円)	合計(円)
「ベップ・アート・マンス 2016」 (A)	宿泊客	1泊	924	20,000	18,480,000	65,958,000
		2泊	462	32,000	14,784,000	
		3泊	231	44,000	10,164,000	
		計	1,617			
	日帰り客	3,004		7,500	22,530,000	
「目 In Beppu」(B)	宿泊客	1泊	192	20,000	3,840,000	12,545,000
		2泊	109	32,000	3,488,000	
		3泊	33	44,000	1,452,000	
		計	334			
	日帰り客	502		7,500	3,765,000	
観光消費額 (A)+(B)						78,503,000

【客数の算出方法】

(1)「目 In Beppu」総来場者1,122名のうち、「ベップ・アート・マンス 2016」との重複来場者数(p49の問10で「他のプログラムに1つ以上参加した・参加する予定」と答えた回答者が572名であったため、半数の286名)を引いた836名を客数とする。(2) 宿泊/日帰りについては、p46の<滞在期間>の結果をもとに算出(日数不明 33% は除く、そのうち居住地を「別府」「大分県内」「大分市」と選択した回答者は「日帰り」として計算)。宿泊客：836×40%=334名、日帰り客：836×60%=502名。また、宿泊日数の結果から泊数ごとの客数を算出。(3)「ベップ・アート・マンス 2016」1名あたりの平均参加プログラム数は2.8プログラムとなる。そのため、対象者は「ベップ・アート・マンス 2016」参加者総数に対して、12,939名(「目 In Beppu」のアンケート内の「ベップ・アート・マンス 2016に参加した」という回答者が572名であったため、半数の286名を引いた数)÷2.8=4,621名とする。(4)入場者アンケートにより、宿泊/日帰りの比率を算出。4,621名×35%=1,617名。4,621名×65%=3,004名。また、宿泊日数の結果から泊数ごとの客数を算出(なお、外国人観光客は全体の1%以下のため、本項では除外した)。

第6章 収支状況

収支としては、68,640,930円の収入に対して、68,640,930円の支出となり、収支差額0円となった。

(2017年5月6日時点)

1. 収入

負担金	大分県	¥43,166,000※
	別府市	¥20,000,000
	実行委員会参画団体	¥280,000
助成金		¥2,800,000
協賛金		¥1,470,000
チケット販売費		¥0
参加費		¥280,000
その他		¥596,635
繰越金		¥69,355
計		¥68,661,990

※内、国庫補助金(文化庁 平成28年度文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業)=33,166,000円／大分県負担金10,000,000円

2. 支出

旅手帖beppu制作事業	¥2,838,200
多言語情報発信事業	¥1,360,600
「ベップ・アート・マンス 2016」開催事業	¥5,719,818
「in BEPPU」開催事業	¥33,205,600
定住促進調査事業	¥773,620
事務局運営費	¥18,039,270
広報費	¥6,724,882
計	¥68,661,990

3. 収支差額

収入	¥68,661,990
支出	¥68,661,990
収支差額	¥0

7-1. 評価の検討

(1) 評価の対象

別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会(以下、実行委員会)が2016年度に実施する事業が評価対象である。具体的には「ベップ・アート・マンス(以下、BAM)2016」と「目 In Beppu(以下、目IB)」である。

(2) 評価の主体

BAM2016ならびに目IBに対する今回の事業評価は「アーツ・コンソーシアム大分」による第三者評価として実施する。従来から大分県では、民間団体や有識者との協働のもと、彼らの知見・ネットワークを活用し、効果的・効率的な文化施策の推進に努めてきた。一方で、これらの取り組みにおける評価や民間資金獲得の手法などに関する調査・研究については、実施ができていなかった。また、2018年の「第33回国民文化祭・おおいた2018」を見据えると、アートマネジメント人材などの育成についても今後強化していく必要がある。こうした問題意識を踏まえて、大分県、大分県立芸術文化短期大学、大分県芸術文化スポーツ振興財団の三者からなるコンソーシアム(共同事業体)型の組織として、2016年6月に設立されたのが、アーツ・コンソーシアム大分である。

アーツ・コンソーシアム大分では、県内で実施されるアートプロジェクトに対する評価手法の検討と試行を行うこととしており、今般、BAM2016&目IBを対象に評価を行ったものである。

(3) 評価の手法・性格

実行委員会は従来から、別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界(以下、混浴)」やBAMの評価手法としてバランス・スコアカード(以下、BSC)を活用してきた。BSCを用いて企画段階のロジックを構築するとともに、目標設定と成果検証の手法としては業績測定を選択している。思うに、企業の業績評価・戦略経営支援システムから発展したBSCは、継続的なプロジェクトや組織を評価するのに適した手法である。芸術祭が終わるたびに実行委員会や事務局が解散するプロジェクトへの適用はきわめて困難であろう。これに対して、混浴&BAMの主催者である実行委員会は、第1回の混浴2009以降継続しており、何よりも常設の事務局としてNPO法人 BEPPU PROJECTが存在するため、BSCの導入に適していたと考えられる。このため、2016年度の評価においてもBSCを活用するものとする。

ただし、実行委員会ならびに事務局のBEPPU PROJECTからは今回、従来のBSCに満足することなく、さらなる高度化を図りたいとのニーズが寄せられた。これまでのBSCは、ステークホルダーに対してプロジェクトの業績を分かりやすく伝達する仕組み、すなわちアカウントビリティ確保を主目的とした業績評価システムとしては、一定の役割を果たしたものと判断する。しかしながら、プロジェクトの経営基盤を強化し、事務局スタッフや関係人材の成長を促す、戦略経営支援システムとしてはいまだ不十分だというのが、

来場者の数や経済波及効果は、プロジェクトの実施年だけで完結するものであり、こうした短期的・量的な効果だけではなく、中長期的・質的な効果を重視すべきである。また、経済波及効果の多寡だけでは、なぜ「文化に投資するのか」という問いに答えることができない。2020年の東京オリンピック・パラリンピック以降におけるアートプロジェクトや芸術文化振興施策のサステナビリティ(持続可能性)を確保する、すなわちレガシー(未来に継承すべき財産)を残すことを考えれば、その核にあるのは“人材”の成長にほかならない。キャパシティビルディング(目標実現のための能力構築・向上)こそが、今後のBSCの要となるべきだというのが、実行委員会の考えである。

今回、実行委員会は混浴のあり方をゼロベースで見直し、新たに個展形式の芸術祭である「in BEPPU(以下、iB)」をスタートさせた。初回のプロジェクトである目IBは言わば実証実験である。すなわち、今回行ったBAM2016&目IBの評価は、成果を検証する事後評価というよりも、課題をあぶり出すための事前評価という性格が強い。こうした課題把握を踏まえて、次年度に新たなBSC(人と組織の成長のためのBSC)を構築することで、2020年以降も持続可能なアートプロジェクトの経営モデルを生み出すことがテーマである。

このために、実行委員会事務局を務めるBEPPU PROJECTは、経営者である山出代表理事とスタッフの間でディスカッションを重ね、そこにアーツ・コンソーシアム大分もこのプロセスに参画して知見を投じることで、現実性がありながらなおかつ意欲的な目標を設定した「経営に使える」BSCを構築してまいりたい。

7-2. 評価手法の再整理

(1) 今回の評価の位置づけ

BAM2016&目IBの事業評価に際して、まず今回の評価の位置づけを述べたい。

これまで3年に1度の芸術祭として、複数のアーティストが作品を発表するかたちで開催してきた混浴を、今回より

毎年1組のアーティストを招聘する個展形式の芸術祭iBへと見直しを図った。このため、混浴における評価の視点や指標をそのままiBに流用することは適切とはいえない。

そこで今年度の事業については、これを実証実験と捉えて、今回得られた結果をベースに2020年度に向けた長期的な評価の仕組みを構築することとしたい。すなわち、今次評価は事後評価ではなく事前評価であり、特に評価ロジックの構築に有益な情報を提供することを目的に実施する。

評価の手法については、混浴の評価に従来から用いてきたBSCをベースとして、これを改良・発展させることを念頭に置く。

(2) バランス・スコアカードとは何か

2012年、2015年の混浴&BAMの事業評価に際して用いられたBSCは、ロバート・S・キャプランとデビッド・P・ノートンが考案した企業の業績評価・戦略経営支援システムである。民間企業の業績評価では伝統的に、損益財政という「財務の視点」が重視されていたのに対して、キャプラン&ノートンは、この「財務の視点」に加えて「顧客の視点」「業務プロセスの視点」「学習と成長の視点」も合わせて総合的に業績評価を行うことが重要だと説いた。そして、組織の業績を総合的にみるこうした手法は、利益追求を目的としない公的組織の経営や評価にも役立つのではないかと考えた。内外の行政機関や非営利組織でも検討・導入がなされた経緯がある。

BSCでは、4つの視点ごとに事前に目標値を設定し、事後にその達成状況の業績測定を行う。その際、定量的な目標値として業績評価指標(KPI)が設定される。これらの目標値については、過去の実績などを踏まえたうえで到達すべき適切な数値が設定される。

なお、混浴&BAMの評価に際しては、「財務」「業務プロセス」「顧客」「学習と成長」からなるBSCの4視点を、より実態にあわせて「財政」「マネジメント」「ステークホルダー」「創造と学習」と読み換え、さらに5番目の視点として「地域再生の視点」(2015年より「地方創生の視点」)を導入した。

①財政の視点

民間の企業経営に用いるBSCでは、財政の視点において損益・財政面の評価などを行う。民間企業の場合、利益や良好な財務体質の確保はきわめて重要な目標である。ただし、企業の財務諸表は過去の損益・財政状況を示すものに過ぎず、足元の利益に過度に囚われて、マネジメント(業務プロセス)、ステークホルダー(顧客)の視点に係る現在の改善活動や、創造と学習の視点からの未来に向けた人材育成投資を怠ると、中長期的にはむしろ利益を損なう懸念もある。このためBSCに基づく戦略的経営では、これらの諸視点に係る指標をバランスよくみながら企業を上手に経営していくことが求められるが、それでも最終的に重視されるのは、中長期的な利益の最大化という財政(財務)の視点である。

これに対して、当事業のようなプロジェクトでは、主催者が儲けることが一義的な目的ではなく、地域に対する様々な外部効果(創造的人材の育成・誘致、まちなかのにぎわい創出、地域経済の活性化等、主催者に限らず地域全体が享受する効果)が最終目的となる。このため、混浴&BAMのBSCでは、最終的な目的として、後述するような地方創生の視点を別立てした。

②マネジメントの視点

マネジメントの視点と、後述するステークホルダーの視点は、主に事業の実施プロセスを評価するもので、事業実施のあり方に現在進行形でメスを入れていくことになる。このうち、マネジメントの視点では、実行委員会による実行体制の確立強化を目指し、事務局業務が効率的・効果的に遂行されていたか否かの評価を行うものである。

③ステークホルダーの視点

マネジメントの視点では主催者である実行委員会の内部体制が問われたが、混浴&BAMの開催に際しては、他にも数多くのステークホルダー(関係者)とコミュニケーションを図ることが求められる。ステークホルダーとして第一に念頭に置くべきは、当該視点がBSCの基本形で「顧客の視点」と位置づけられていることから分かるように、芸術祭に來場する観客であろう。

一方、別府において「観光地型・文化芸術創造都市」のプラットフォームを形成するためには、観客以外にも多様なステークホルダーとの協力体制を確立することが不可欠である。例えば、地域で文化活動に取り組む創造的人材や、自治体・企業・団体などと適切な連携・協働が図られているかという点は重要である。

④創造と学習の視点

BSCの基本形における「学習と成長の視点」は、優れて未来志向、成長志向の視点であり、企業の従業員や情報システム、業務プロセスの能力を向上させるための投資にフォーカスしている。一方、混浴&BAMのBSCでは、事務局スタッフの能力・成長等は主にマネジメントの視点で評価しており、創造と学習の視点は、BAMのプログラム実施者となった

市民らが、文化芸術に関わる自らの創造性をいかに高めることができたかを見るものである。こうした学習を通じて、彼らが地域における他の諸課題に対しても創造的な解決を行っていくことが期待される。

⑤地方創生の視点

地方創生の視点では、以上の4つの視点における取り組みを通じて、混浴&BAMが別府における様々な地域課題の解決に寄与し得たかという観点に関する評価を行う。

(3) バランス・スコアカードの体系の改訂

以上のようなBSCを用いてこれまで評価を行ってきたが、作業を行うなかで使い勝手の悪さや課題も実感するようになった。例えば、創造と学習の視点は、市民の創造性向上に着目した結果、ステークホルダーの視点や地方創生の視点との重複が目立った。ステークホルダーの視点には、観客に加えて、事業実施における連携・協働先も含めたが、芸術祭の受益者である前者と、事業パートナーである後者をまとめて評価したことで、焦点が曖昧になった面がある。

また、より本質的な課題としては、従来のBSCが業績評価の結果を分かりやすくプレゼンテーションする枠組みとなることでアカウントビリティ(説明責任)の確保には役立った一方、事業の戦略的経営を支援するシステムとしては機能しづらい内容となっていたと指摘できる。「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」が催される2020年以降も、実行委員会事業が自立性、持続可能性を高めてレガシー(未来に継承される財産)となっていくには、BSCの各視点において、人材の成長と経営基盤の強化にフォーカスした目標設定と、定期的なモニタリング、業務改善が求められる。

以上を踏まえて、まず、BSCの視点を次のように再整理を行い、5つの視点が実行委員会事業に関連するどの主体や業務に着目しているかの関係性を明確にした。



①マネジメントの視点：実行体制の確立・強化

事業経営の根幹となる、実行委員会・事務局の体制強化、ボランティア組織の強化、人材の育成などについて評価を行う。

②財政の視点：財政基盤の確立

協賛金・負担金の獲得、チケット販売力の強化などについて評価を行う。事業主体内部のマネジメントという意味ではマネジメントの視点と、資金提供先との関係強化という点ではステークホルダーの視点と関係するが、事業財源確保のためのファンドレイジング(資金調達)はきわめて重要であることから、両視点とは別立てする。

③ステークホルダーの視点：創造都市プラットフォームの形成

地域で文化活動に取り組む創造的人材の拡大や、自治体や企業、各種団体(芸術文化団体等)との連携・協働関係の強化について評価を行う。また、インバウンド4,000万人時代を視野に入れた場合、海外機関との連携強化も重要な評価項目となる。

④観客の視点：文化芸術や地域資源を活用した新たな魅力の創出

単なる観客数の多寡ではなく、観客がBAMやiBに参加して味わった体験の質を問いたい。例えば、BAMについては、市民にとって参加しやすく体験して良かったと思える事業になっているか。iBについては、BAMの目玉事業としてエッジの効いた、国際的にも発信力の高い事業となっているか。そして、これらの事業や、別府におけるその他の魅力を発信するメディアとしてWEBサイト「旅手帖beppu」などが機能しているか。

⑤地方創生の視点：別府における諸課題の解決

地域におけるまちづくり人材の育成や、別府の新たな魅力創出、別府観光の振興(単なる観光客数の増加ではなく、客層の多様化や滞在時間の増加)、創造的人材の移住促進など、別府の地域課題解決に向けた成果を評価する。

7-3. 2016年度事業の評価結果

以上の再整理を踏まえて、2016年度の実行委員会事業に対する評価を行う。ただし、本章冒頭で述べたとおり、今次評価は、iBの実証実験の検証を通じて次年度に新しいBSCを構築することを目的としており、以下の5つの視点では、そのためのベースラインの確認や課題抽出のための気づきを中心に記述している。

(1) マネジメントの視点

①事務局業務のクオリティ

実行委員会による実行体制の確立強化を目指し、事務局業務が効率的・効果的に遂行されていたか否かを確認する。事務局業務の質について、BAM2016のプログラム実施者へのアンケートの集計結果をみると、事務局業務に対する満足度(「大変良い」+「良い」とした回答の構成比)は95%となり、前年(93%)並となった。

②スケジュール管理

今回の実行委員会事業、特に目IBの最大の反省点はきわめてタイトなスケジュールで事業を進めることになった点である。11月に実施するiBのプロジェクトのために、現代芸術活動チーム【目】が別府にロケハンに入ったのは、2016年春のことである。ただし、この点についてはやむをえない事情も存在する。混浴をゼロベースで見直して、新たにiBをスタートするため、大分県、別府市の予算確保がなされ、実行委員会で計画を承認するのがどうしても2015年度末にならざるを得なかったのだ。一方で事業実施時期は、「第33回国民文化祭・おおいた2018」のキックオフに合わせる観点から、11月とする方針が決まっていた。次年度以降については、iBの実施方針について県市、実行委員会の了解が得られているため、できるだけ早い段階でアーティストとの折衝を始めることが肝要である。

一方、こうした事情によらないスケジュールの遅れもあり、ここについてはスケジュール管理が不十分であったと言わざるを得ない。別府市役所を会場にするという決断はたいへん意欲的であったが、制約条件がきわめて大きく複雑な場所でもあることから、アーティストにおける作品の企画構想と、事務局サイドにおける関係各所との調整に時間を要した事実は否めない。

しかしながら、11月開催というめ切をずらせない以上、広報・集客戦略の展開をはじめ、それぞれ後ろ倒しが効かないマイルストーン(里程碑)が多々あったはずである。会期から逆算してスケジュールを設定し、動かせないマイルストーンを明確に定めて関係者間で共有することが不可欠であった。混浴の場合は個々のアーティストによる制作スケジュールとは別に、芸術祭全体の会期という絶対的なデッドラインが存在する。これに対してiBは1組のアーティストによる個展形式の芸術祭のため、作品のクオリティを高めようとする先方の熱意に応えたいという思いが先行して、イベント全体としてのスケジュール管理が二次的になった面はないだろうか。

全体的な企画の設計を早期に行い、大枠のスケジューリングとマイルストーンの設定を行うことが重要である。

③ボランティア・マネジメント

今回の実行委員会事業でボランティアが担った主な業務は、目IBのツアーの受付・案内であった。

その会場である市庁舎には、市政に関する重要資料が多数保管されている。また、窓越しに作品を鑑賞できるグランドフロアには総務部課税課の窓口があり、利用者の個人情報保護の問題が付いてまわる。さらに、もう一つの鑑賞地点は市長応接室であり、市長や副市長が執務を行ううえでのセキュリティの確保が必須である。

こうした難しい場所を会場としたことから、ツアーの案内人は、混浴2015でツアー・ガイドを務めた経験者を中心に依頼した。事務局として、案内手順を事前にシミュレーションしたうえで説明内容を記したペーパーも作成して案内人に渡したが、彼らはツアーを進める中で手順にマイナーチェンジを加え、説明内容も少しずつブラッシュアップしていった。彼らボランティアが主体的に作品や鑑賞者とうまく向き合うかを考えてくれたのは、2015年の混浴における経験値が大きい。混浴やBAMに協力的な市民や、これらの事業を契機に別府に移住してきたアート関係者が増えてきたことが、ボランティアの円滑な確保に寄与したといえる。

(2) 財政の視点

①実行委員会事業の収支構造

実行委員会事業の収支のうち、収入面は通常、官民団体からの負担金・助成金・協賛金と、チケット販売等の事業収入から構成される。BAMに登録して実施される多彩なプログラムの中には、有料／無料双方の企画があるが、有料プログラムの収入を受け取るのは各プログラムを企画した主催者であり、実行委員会の収支には計上されない。実行委員会事業で事業収入として計上されるのは、昨年度までであれば混浴のチケット販売収入、今年度以降についてはiBのチケット販売収入が主な内容となる。

②「目 In Beppu」の入場料について

今回の目IBについては鑑賞を無料としたため、実行委員会事業は、収入面についてほぼ全額を官民負担金などで調達する収支構造となっている。市役所の庁舎という、一般市民が自由に立ち入ることのできる場所を会場としたため、有料／無料の線引きが困難であったことから無料にしたものである。

もっとも、市民の個人情報を含めてセキュリティ上の制約の大きい市庁舎を巡るうえで、市長応接室への立ち入りを含めて最終的には事前予約を原則とするツアー方式が採用された。したがって、十分な余裕を持って制作・展示計画を立てることができれば、市庁舎グラウンドフロアへの立ち入りは規制できないにせよ、ツアー参加については有料とすることは可能であったと思われる。iBが国際的にも発信力のあるアートプロジェクトを指向する以上、受益者負担として一定の入場料金を徴収する方が好ましいだろう。こうした観点からも、今後の適切なスケジュール管理が不可欠といえる。

(3)ステークホルダーの視点

①別府市役所との連携

2016年度の事業に際して最も協力を仰いだのは、目IBの会場として市庁舎を提供いただいた別府市である。市庁舎の外壁に巨大な構築物を設置するうえでは、建築関係の法制度のクリアが不可欠であった。また、保管された市政に関する重要資料や、窓口を訪れる一般市民のプライバシーに配慮しながら、観客に庁舎内を見学してもらううえでは、セキュリティ面での調整も必須であった。これらの山積する課題の調整に協力いただいた市職員の皆さまには、心から感謝したい。

以上の調整作業の窓口は、実行委員会事業の直接の担当課であるONSENツーリズム部文化国際課だけではなく、建築関係の規制を担当する建設部の各課、市長応接室やグラウンドフロアという作品鑑賞地点を管掌する企画部秘書広報課や総務部課税課など、きわめて多岐に渡る。事務局スタッフは当初、各課を個別に訪ねて相談を行っていたが、多種多様な制約条件を総合的にクリアするうえで個別調整には限界があり、最終的に関係各課が一堂に集まり、事務局と総合調整を行う検討会を開催していただいた。こうした横断的な場が設けられたことで、各方面における課題の共有化と多面的な調整が可能となった。大きなトラブルもなく、目IBの円滑な運営を図ることができたのは、別府市役所におけるこうした協力体制の賜物といえる。こうした関係各課横断の検討会を最初の段階で企画し、その場で各課からさまざまな問題点をあぶり出して全員で共有したうえで、総合的に解決を図った方が、より効率的な調整作業が可能であったと思われる。事務局として今後の教訓にすべき点である。

市職員からはまた、「市役所を会場に使うと聞いて、当初は絵画を展示する程度のイメージしか抱いておらず、目IBのようなプロジェクトは想像の埒外であった」との声もあった。アーティストや作品の内容について今回、事務局から市に対して説明は行ったが、本来であれば、アーティスト本人の言葉で、今までの活動や今回の作品の世界観等について説明する機会を設けた方が良かったかもしれない。

もちろん次年度以降のiBで、今回のように市庁舎を会場として使うとは限らない。しかしながら、今回、市の各課との間に培ったネットワークは、今後の事業を円滑に進めていくうえで大きな財産といえよう。

②「in BEPPU」における市民参加のあり方

市役所と緊密な協力関係を築けた目IBであるが、それとは対照的に、市民に対する訴求に弱かった面もある。混浴のように中心市街地を会場としているわけではなく、市役所を訪れて作品に遭遇した市民も「これはいったい何だろう」というモヤモヤした気持ちを抱きつつ、窓口の市職員に聞けぬまま帰るケースもあったのではないかと。会期前半に【目】のアーティスト・トークが開催されたが、参加者はどうしてもアートファンや、以前からの混浴参加者が中心となりがちである。それ以外に、市民や観光客が、作品に対する感想などを交換できる場を設けるなど、市民がiBやBAMに定期的に関わるることのできる接点をつくることも今後検討すべき課題ではないかと。

(4)観客の視点

①発信力の高い事業の創出

BAMの目玉プログラムである目IB自体に対する、観客の満足度(「よかった」「どちらかといえばよかった」とした回答の構成比。2015年の集計結果との整合性を保つため、未回答者を分母から除いて構成比を算出。以下、特段の注記がない場合は同様)は73%であった(「普通」との回答を加えて90%)。

これに対して混浴2015の満足度は92%であったが、両者の数字を単純に比較するのは不適切であろう。というのも、目IBへの評価は「興行きの近く」という個別の作品に対する評価であるのに対し、混浴2015への評価は、複数のアーティストが参加する芸術祭の取り組み全般に対するものであるからだ。仮に後者でも個々の作品に対する感想を質問していれば、作品によってさまざまな意見が返ってきたと思われる。「興行きの近く」は、これまでの【目】の作品の中でも特に不可解さと抽象度の高い作品であり、アンケートへの自由回答として「上質で挑戦的な内容で興味深い」という感想が寄せられる一方で、「難しい作品でした」との意見も出たのは無理からぬ次第と言える。

ツアーやその他の機会を捉えて、作品の魅力の解説を工夫する余地があるだろう(アートの場合、全てを説明すれば良いというものでもないで匙加減が難しいが)。また、わざわざ遠方から来たのに目IBしか鑑賞するものがなかったと感じた観客もいると思われ、そうした層に向けてBAM全体や同時期に県内で催されるアートプロジェクトの情報を発信することも重要であろう。いずれにしても、今回の満足度をベースラインとしつつ、満足度を高めていくための努力が必要である。

②広報について

すでに述べたとおり、目IBのスケジュールは全体的に後ろ倒しになっており、そのシワ寄せを最も受けたのが広報業務と言えよう。プレス発表の日程や、広報物の完成が遅れた結果、広く一般に目IBを周知する十分な時間的余裕を確保できなかった点は大いに反省すべきである。また、特に別府市内での広報については、事前に市と十分調整を図り、市の広報体制と連携していくことも重要である。

広報スケジュールの遅れとは別に、アートプロジェクトの全国的な周知を図るうえで、1ヶ月という会期は短いとの意見も事務局内部で出た。県外のアートファンが、SNSや口コミを介してiBの存在を認知し、旅行を計画しようとする前に、会期が終わってしまうとの指摘である。たしかにこれまでの混浴の会期は、2ヶ月間ほど設けられていた。会期の長期化には予算・体制面の制約もあるが、検討すべき課題であろう。

また、これまでの別府の取り組みは、単にアートで集客を図るだけではなく、別府の地域資源である温泉、食文化、町並みに加えて地域住民の魅力等も総合的に発信することで、リピーターとなる別府ファンの確保につなげてきた。そのためのメディアが、混浴2012の「旅手帖beppu」や混浴2015の「ARTrip大分」といった紙媒体のガイドブックであった。これに対して今回は「旅手帖beppu」のWEB版をリニューアルして、文化イベントとともに地域情報を手厚く発信することを計画していたが、iBなどの準備に時間を割かれた結果、WEB版の改訂作業が後手に回った。このため、WEB版の本格リニューアルが、BAM会期終了後にずれ込んだのは反省点である。今後の情報発信に向けて、WEB版の認知を高めていくことが重要である。

(5)地方創生の視点

①別府の新たな魅力創出

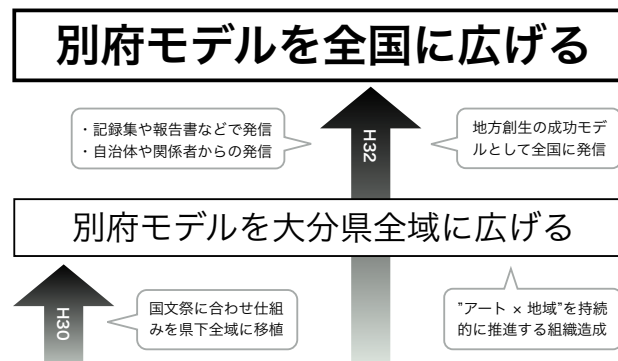
来場者アンケートによれば、BAM2016に対する観客の満足度(「大変よい」「よい」とした回答の構成比、以下同様)は、iBを合算したベースで93%、iBを除いたベースで96%であった。BAM2015における後者のベースでの満足度は95%であり、引き続き高い水準を維持したといえる。

②集客交流人口の多様化と滞在時間の増加

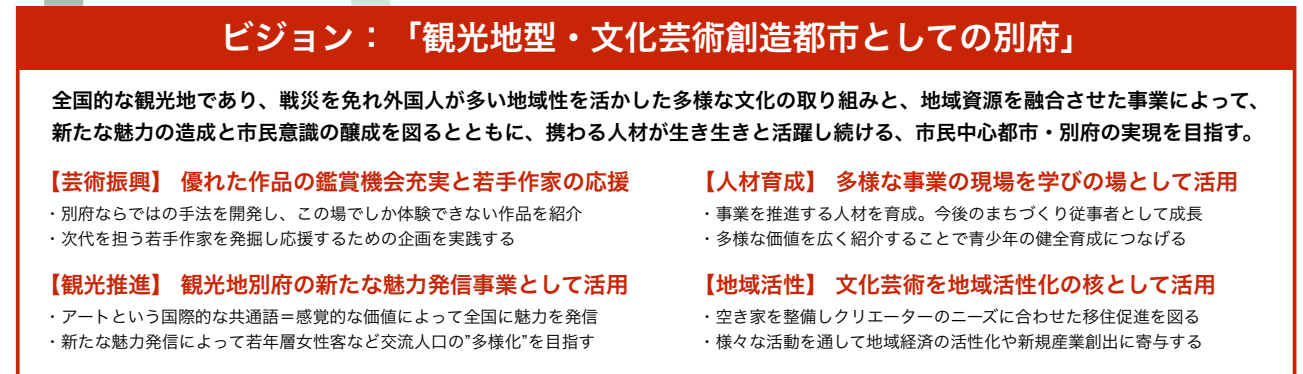
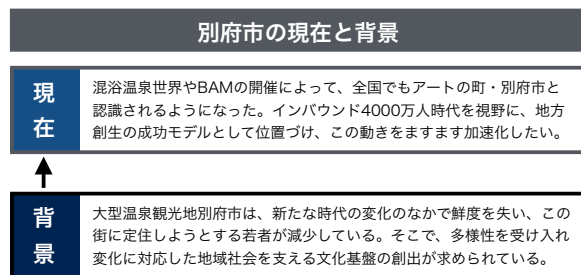
来場者アンケートから観客の年齢・性別をみると、目IBでは30代女性が最も多く、20代女性、40代女性がそれに続いており、混浴2015と同傾向であった。これに対して、BAM2016(除く目IB)では40代女性が最多であり、60代以上の女性が最多を占めたBAM2015とは様相が変わった。観客の居住地をみると、BAM2016(除く目IB)は別府市、大分市を中心とする県内客が8割を占める傾向はBAM2015から変わっていない。一方、目IBでは県外客の比率が4割を占め、広域から集客していることが分かるが、混浴2015の7割には及ばなかった。全体の事業規模が2015年度に比べて小さくなったことに加え、鑑賞すべき作品が一つしかないと感じ止められたことが原因と考えられる。

滞在期間について、目IBでは宿泊をとまう観客の割合は25%(未回答者を分母に含む。滞在期間を未回答とした方の多くが別府市民であったため、より実態に近いものと判断)であり、1泊の割合が14%と最も高かった。混浴2015に比べて県外客の割合が減少している分、平均的な滞在期間も短くなっている。

BAMをはじめとする地域情報発信の充実とともに、iB以外の目玉プログラムの造成などを通じたBAM全体の魅力向上も重要と考えられる。



領域：国民文化祭おおいと2018 市町村実行委員会事業
テーマ：カルチャーツーリズム
内容：従来の各文化に携わるアマチュア愛好家の発表の場としてだけでなく、大分県を5つの文化圏にゾーニング、それぞれに与えたゾーンテーマを元に、地域性を活かした文化事業(リーディングプロジェクト)を各市町村が新規に造成。それとともに他の文化事業や地域体験および食体験を同時に紹介し、地域の魅力発信事業として位置付ける。 ※山出が全体アドバイザーとして関与
条件：①教育委員会だけではなく、関係する市長部局(文化・商工・観光など)も含む組織体制の構築
②各市町村ごとの魅力の開発とともに、ゾーンを同一とする他の地域と連携を図り、広域的な魅力の開発・発信
③ゾーン「出会いの場」(別府市・大分市・由布市)が集客の核となり、着地型観光と同様の考え方で県内各地に誘客する



【戦略マップ】

